

町職員調査結果

調査の概要

町職員調査

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、苅田町における男女共同参画について現状を把握し、第2次苅田町男女共同参画行動計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査項目

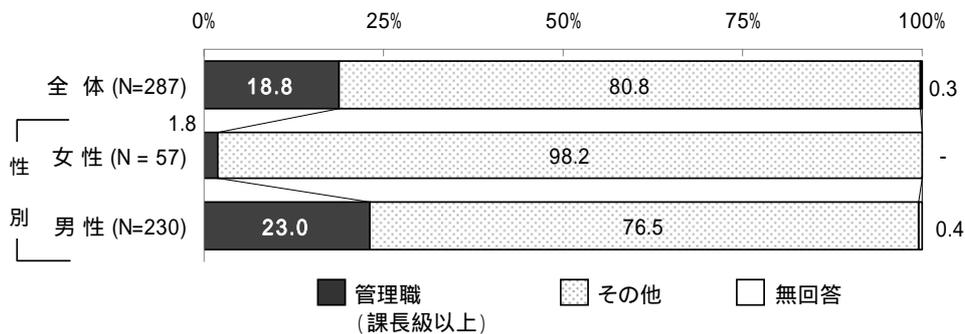
- (1) 男女共同参画に関する考え方について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 暴力などの人権侵害について
- (5) 社会活動への参画について
- (6) 男女共同参画社会の実現に向けて

3. 調査の性格

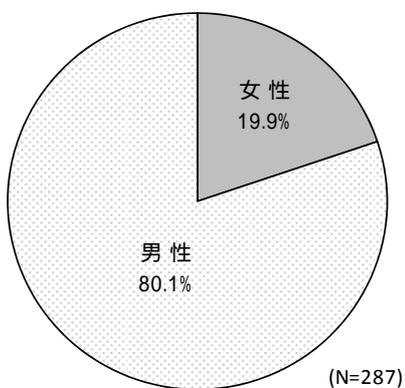
- (1) 調査地域 苅田町全域
- (2) 調査対象者 町役場職員全員 329人
- (3) 回収率 有効回収数 287人 有効回収率 87.2%
- (4) 抽出方法 苅田町役場に勤務する町職員全員
- (5) 調査方法 職場で配布し、所定の場所に提出してもらった。
- (6) 調査期間 平成23年9月7日～9月26日
- (7) 調査企画 苅田町総務部人権男女共同参画課
- (8) 調査実施機関 (株)西日本新聞社 マーケティング室
- (9) 調査結果の分析と監修 分析 吉田 喜代子
(NPO法人福岡ジェンダー研究所研究員)
監修 横山 美栄子
(広島大学ハラスメント相談室長・教授)

4. 標本特性

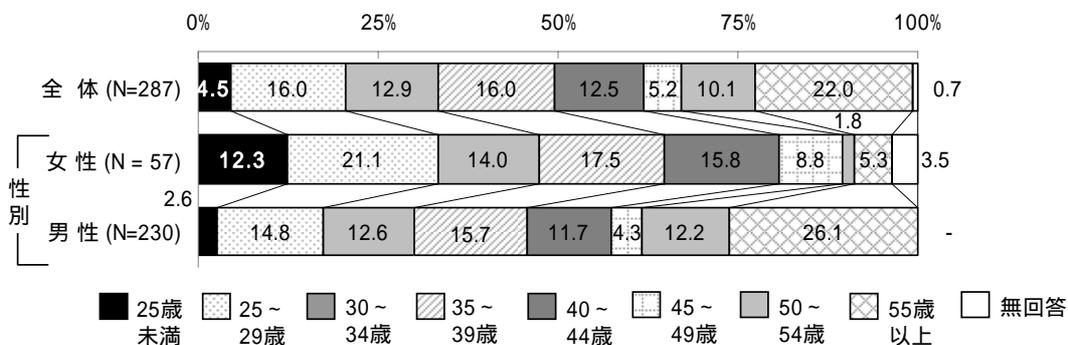
役職



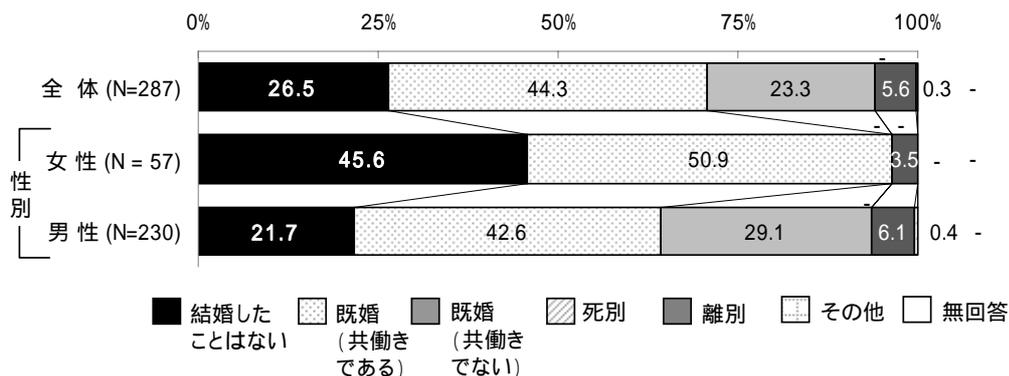
性別



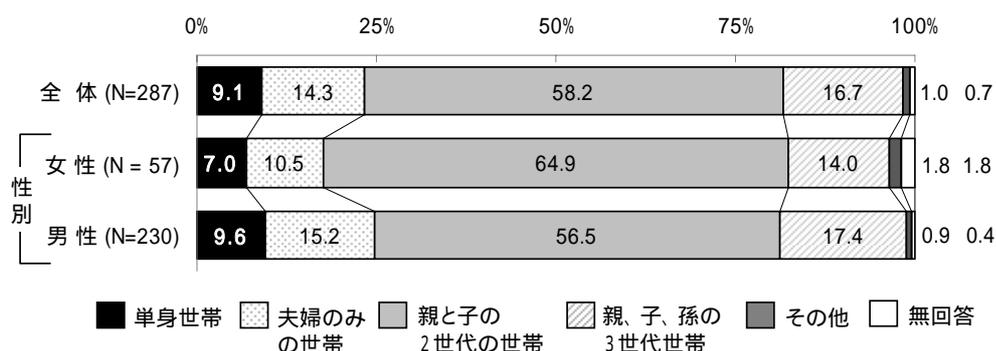
年齢



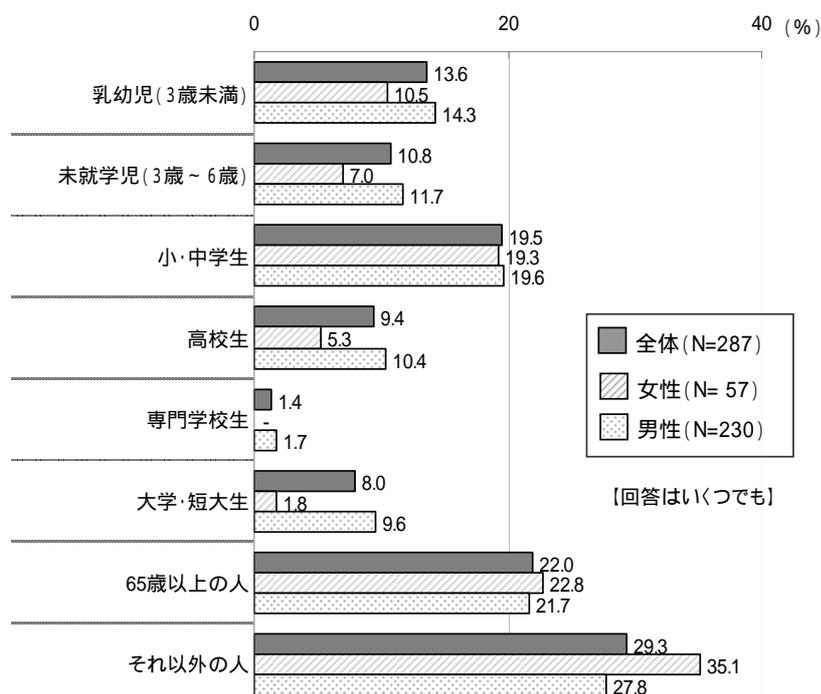
配偶関係



世帯状況



同居家族



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問、付問 - 等は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。

調査結果の分析

町職員調査

調査結果の分析 町職員

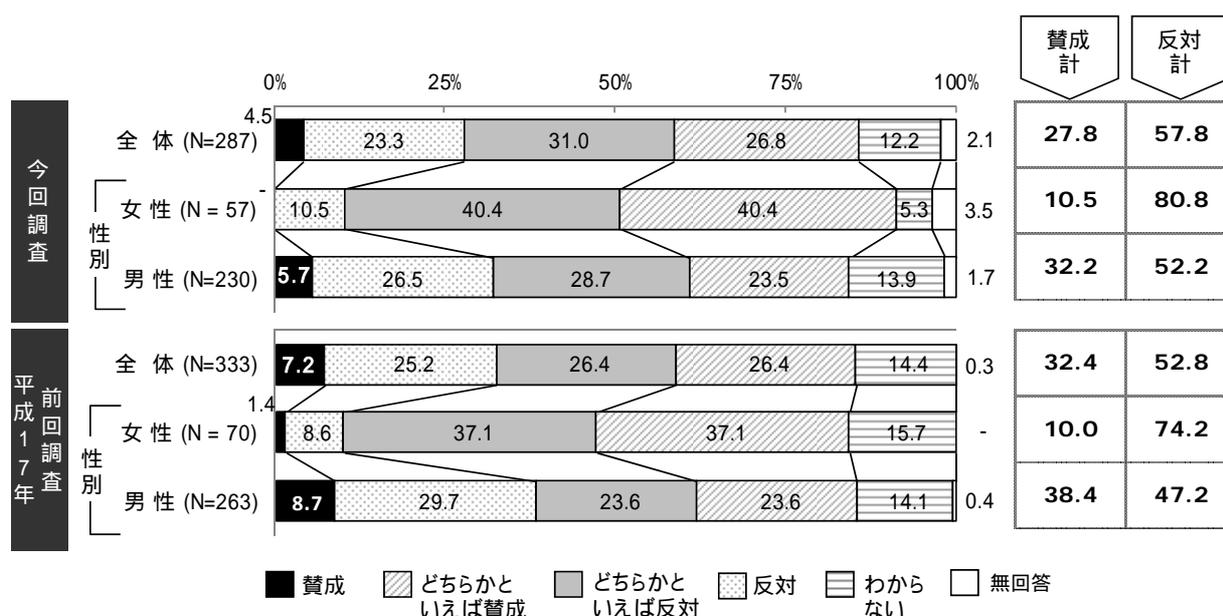
第1章 男女共同参画に関する考え方について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(印は1つ)

性別役割分担に『反対』は女性約8割、男性5割強。特に女性の20歳代と30歳代が高い。

図1-1 性別役割分担意識 [全体、性別] (前回調査比較)



「男は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識について「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた性別役割分担に『賛成』の合計は27.8%、一方、「反対」「どちらかといえば反対」の合計は57.8%と性別役割分担に『反対』の人の方が30ポイント上回っている。参考までに住民意識調査の『反対』は52.1%、教職員では69.0%となっている。

性別にみると、性別役割分担に『反対』の女性は80.8%、男性は52.2%と28.6ポイントの大差となっており、また『賛成』も女性が10.5%に対し、男性は32.2%と男性に容認する人が多い。

平成17年に実施された「男女共同参画に関する意識調査」【町職員】(以下、「前回調査」という)と比較すると、女性は「わからない」が10.4ポイント減少し、『反対』が74.2%から6.6ポイント増加している。また男性の『反対』も前回調査の47.2%から5ポイント増加し、『賛成』は38.4%から6.2ポイント減少しており、この5年間で男女とも性別役割分担を容認しない人が増加する結果となっている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の20歳代と30歳代で『反対』が9割前後と高いのが目立つ。男性も20歳代と30歳代で男性の他の年代に比べると5割台後半と高い方であるが、女性と比べると20歳代で32ポイント、30歳代で39ポイント低い。

表1 - 1 性別役割分担意識 [全体、年代別]

		標本数	賛成	えどち ばち 賛成 か と い	えどち ばち 反対 か と い	反対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全体		287 100.0	13 4.5	67 23.3	89 31.0	77 26.8	35 12.2	6 2.1	80 27.8	166 57.8
年代別	女性:20歳代	19	-	5.3	47.4	42.1	5.3	-	5.3	89.5
	女性:30歳代	18	-	5.6	44.4	50.0	-	-	5.6	94.4
	女性:40歳代	14	-	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	57.2
	女性:50歳以上	4	-	50.0	25.0	25.0	-	-	50.0	50.0
	男性:20歳代	40	5.0	20.0	32.5	25.0	17.5	-	25.0	57.5
	男性:30歳代	65	4.6	24.6	23.1	32.3	15.4	-	29.2	55.4
	男性:40歳代	37	5.4	27.0	24.3	18.9	24.3	-	32.4	43.2
	男性:50歳以上	88	6.8	30.7	33.0	18.2	6.8	4.5	37.5	51.2
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0

2. 男女の地位の平等感

問2 .あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア) ~ (ク)の分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(印は1つずつ)

男性は「平等」が高く、女性は『男性優位』が高い傾向があり、男女差が大きい。
前回調査に比べ、「学校」「地域・社会活動」「法律や制度」などでは男女とも平等感が感じられている。

図1 - 2 (1) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)

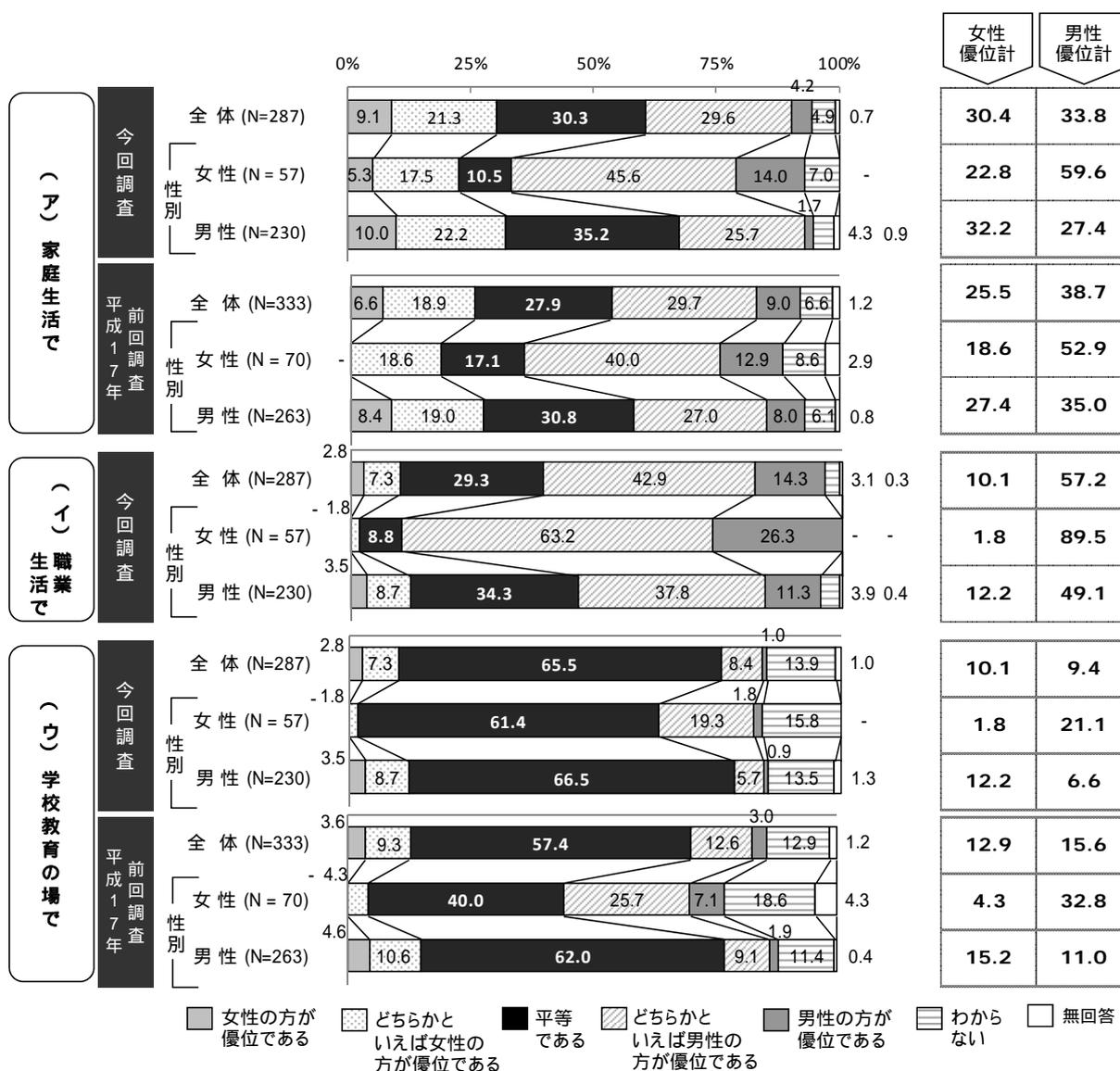
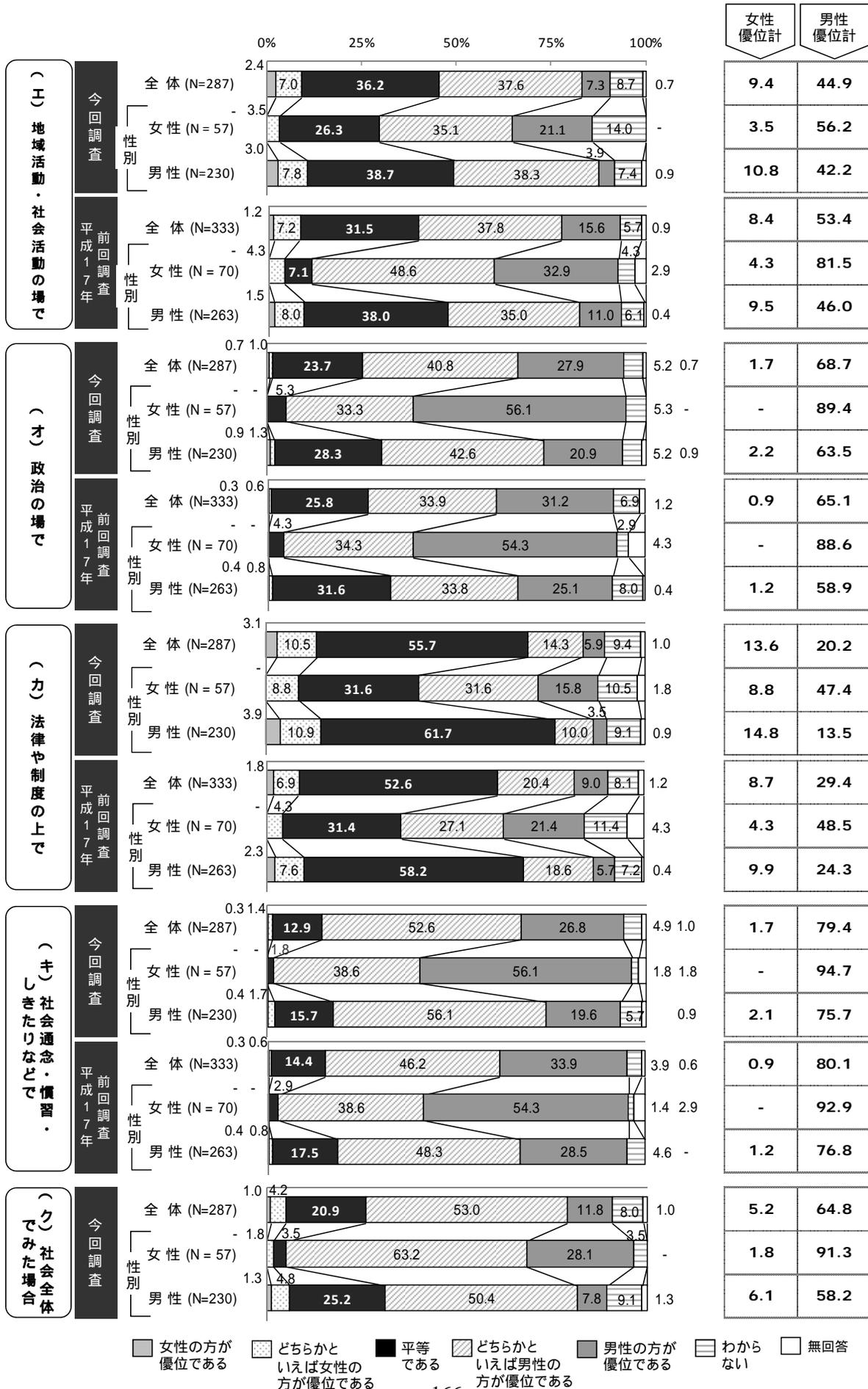


図1 - 2 (2) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感についてたずねた。

全体でみると「(オ)政治の場で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(ク)社会全体でみた場合」において、「男性の方が優位である」と「どちらかといえば男性の方が優位である」を合わせた『男性優位』の回答が6割を上回り、特に「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」では79.4%と約8割を占めており、男性優位の傾向が強く認識されている分野となっている。また、「(イ)職業生活で」でも『男性優位』が57.2%、「(エ)地域活動・社会活動の場で」でも44.9%と「平等である」を上回っている。「(ア)家庭生活で」は「女性の方が優位である」と「どちらかといえば女性の方が優位である」を合わせた『女性優位』が30.4%と最も高い分野であるが、「平等である」も30.3%、『男性優位』も33.8%とほぼ等分となっている。

一方、「(ウ)学校教育の場で」や「(カ)法律や制度の上で」においては「平等である」が5割台から6割台と高い分野となっている。

性別にみると、いずれの分野も男性の方が女性よりも「平等である」と感じる割合が高く、女性は『男性優位』の割合が男性よりも高いという傾向がみられ、またその差が大きいのが特徴的である。女性は『男性優位』が「(イ)職業生活で」(89.5%)、「(オ)政治の場で」(89.4%)、「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」(94.7%)、「(ク)社会全体でみた場合」(91.3%)で9割前後を占めており、男性自身も『男性優位』と認めている分野でもあるが男女差が大きく、特に「(イ)職業生活で」の男性の『男性優位』は49.1%と女性とは40.4ポイントの差があり、女性の方に強い不平等感がみられる。

前回調査と比較すると、「(ウ)学校教育の場で」「(エ)地域活動・社会活動の場で」「(カ)法律や制度の上で」などにおいては男女とも『男性優位』が低くなり、「平等である」が高くなるなど、特に女性で平等感が前回よりも感じられているようである。

表1-2(1) 男女の地位の平等感[全体、年代別]

(%)

	標本数	(ア)家庭生活で									(イ)職業生活で										
		る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計	る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計		
全体	287 100.0	26 9.1	61 21.3	87 30.3	85 29.6	12 4.2	14 4.9	2 0.7	87 30.4	97 33.8	8 2.8	21 7.3	84 29.3	123 42.9	41 14.3	9 3.1	1 0.3	29 10.1	164 57.2		
年代別	女性:20歳代	19	5.3	26.3	15.8	42.1	-	10.5	-	31.6	42.1	-	5.3	-	73.7	21.1	-	-	5.3	94.8	
	女性:30歳代	18	-	27.8	11.1	44.4	11.1	5.6	-	27.8	55.5	-	-	16.7	72.2	11.1	-	-	-	83.3	
	女性:40歳代	14	7.1	-	7.1	50.0	35.7	-	-	7.1	85.7	-	-	7.1	35.7	57.1	-	-	-	92.8	
	女性:50歳以上	4	25.0	-	-	50.0	25.0	-	-	25.0	75.0	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-	75.0	
	男性:20歳代	40	10.0	22.5	35.0	15.0	-	17.5	-	32.5	15.0	7.5	10.0	27.5	37.5	7.5	10.0	-	-	17.5	45.0
	男性:30歳代	65	9.2	24.6	43.1	18.5	1.5	3.1	-	33.8	20.0	4.6	7.7	30.8	35.4	16.9	4.6	-	-	12.3	52.3
	男性:40歳代	37	13.5	21.6	29.7	32.4	-	2.7	-	35.1	32.4	5.4	13.5	37.8	35.1	2.7	5.4	-	-	18.9	37.8
男性:50歳以上	88	9.1	20.5	31.8	33.0	3.4	-	2.3	29.6	36.4	-	6.8	38.6	40.9	12.5	-	1.1	-	6.8	53.4	
無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0	
	標本数	(ウ)学校教育の場で									(エ)地域活動・社会活動の場で										
		る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計	る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計		
全体	287 100.0	8 2.8	21 7.3	188 65.5	24 8.4	3 1.0	40 13.9	3 1.0	29 10.1	27 9.4	7 2.4	20 7.0	104 36.2	108 37.6	21 7.3	25 8.7	2 0.7	27 9.4	129 44.9		
年代別	女性:20歳代	19	-	5.3	57.9	21.1	-	15.8	-	5.3	21.1	-	5.3	31.6	36.8	5.3	21.1	-	-	5.3	42.1
	女性:30歳代	18	-	-	66.7	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	-	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	50.0
	女性:40歳代	14	-	-	64.3	21.4	7.1	7.1	-	-	28.5	-	-	14.3	42.9	35.7	7.1	-	-	-	78.6
	女性:50歳以上	4	-	-	50.0	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	-	25.0	50.0	-	-	-	-	-	75.0
	男性:20歳代	40	10.0	5.0	67.5	-	-	17.5	-	15.0	-	5.0	10.0	42.5	22.5	2.5	17.5	-	-	15.0	25.0
	男性:30歳代	65	4.6	6.2	66.2	6.2	1.5	15.4	-	10.8	7.7	4.6	10.8	38.5	35.4	3.1	7.7	-	-	15.4	38.5
	男性:40歳代	37	2.7	8.1	73.0	8.1	-	8.1	-	10.8	8.1	2.7	10.8	27.0	48.6	2.7	8.1	-	-	13.5	51.3
男性:50歳以上	88	-	12.5	63.6	6.8	1.1	12.5	3.4	12.5	7.9	1.1	3.4	42.0	43.2	5.7	2.3	2.3	-	4.5	48.9	
無回答	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	50.0	50.0	
	標本数	(オ)政治の場で									(カ)法律や制度の上で										
		る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計	る女性の方が優位である	性どちらが優位である	平	性どちらが優位である	る男性の方が優位である	わ	無	女性優位計	男性優位計		
全体	287 100.0	2 0.7	3 1.0	68 23.7	117 40.8	80 27.9	15 5.2	2 0.7	5 1.7	197 68.7	9 3.1	30 10.5	160 55.7	41 14.3	17 5.9	27 9.4	3 1.0	39 13.6	58 20.2		
年代別	女性:20歳代	19	-	-	36.8	57.9	5.3	-	-	94.7	-	15.8	26.3	36.8	10.5	5.3	5.3	-	-	15.8	47.3
	女性:30歳代	18	-	-	11.1	44.4	38.9	5.6	-	83.3	-	5.6	38.9	22.2	16.7	16.7	-	-	-	5.6	38.9
	女性:40歳代	14	-	-	7.1	14.3	71.4	7.1	-	85.7	-	7.1	35.7	28.6	21.4	7.1	-	-	-	7.1	50.0
	女性:50歳以上	4	-	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	75.0
	男性:20歳代	40	2.5	-	27.5	42.5	20.0	7.5	-	2.5	62.5	7.5	12.5	50.0	10.0	-	20.0	-	-	20.0	10.0
	男性:30歳代	65	1.5	3.1	30.8	27.7	32.3	4.6	-	4.6	60.0	6.2	10.8	56.9	10.8	4.6	10.8	-	-	17.0	15.4
	男性:40歳代	37	-	2.7	29.7	45.9	13.5	8.1	-	2.7	59.4	5.4	13.5	73.0	2.7	-	5.4	-	-	18.9	2.7
男性:50歳以上	88	-	-	26.1	52.3	15.9	3.4	2.3	-	68.2	-	9.1	65.9	12.5	5.7	4.5	2.3	-	9.1	18.2	
無回答	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	

表1 - 2 (2) 男女の地位の平等感 [全体、年代別]

(%)

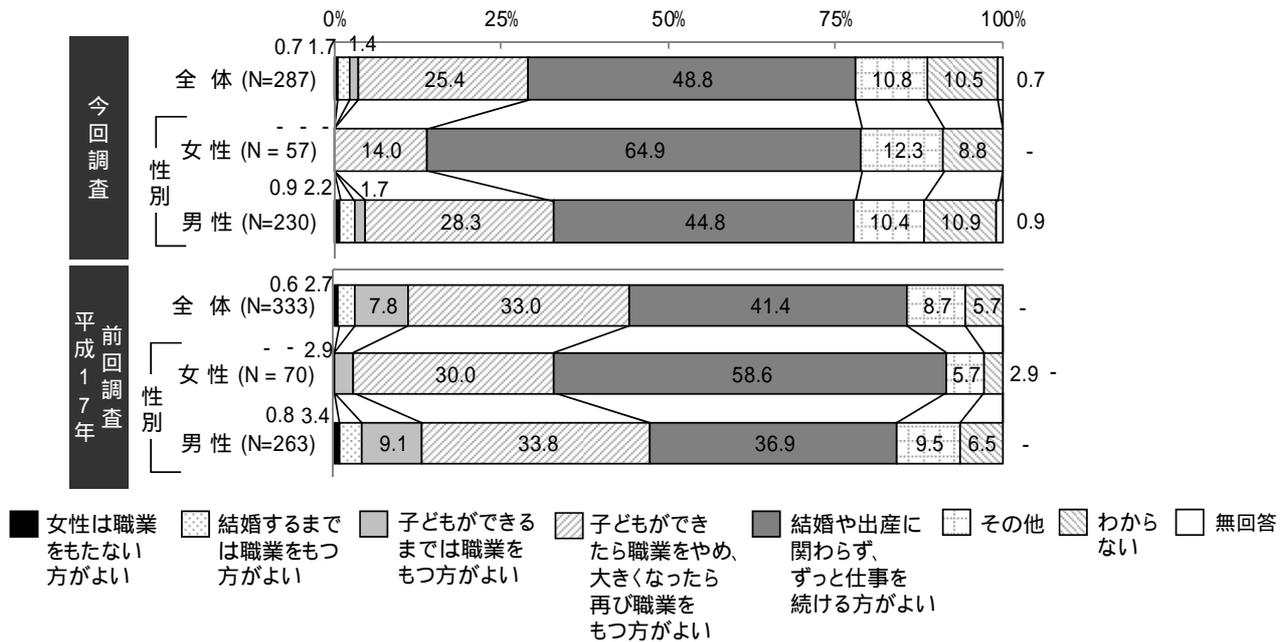
	標本数	(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどで									(ク) 社会全体でみた場合								
		女性の方が優位である	どちらかといえれば女性の方が優位である	平等である	どちらかといえれば男性の方が優位である	男性の方が優位である	わからない	無回答	女性優位計	男性優位計	女性の方が優位である	どちらかといえれば女性の方が優位である	平等である	どちらかといえれば男性の方が優位である	男性の方が優位である	わからない	無回答	女性優位計	男性優位計
全体	287 100.0	1 0.3	4 1.4	37 12.9	151 52.6	77 26.8	14 4.9	3 1.0	5 1.7	228 79.4	3 1.0	12 4.2	60 20.9	152 53.0	34 11.8	23 8.0	3 1.0	15 5.2	186 64.8
年代別	女性:20歳代	19	-	-	57.9	36.8	5.3	-	-	94.7	-	5.3	5.3	68.4	15.8	5.3	-	5.3	84.2
	女性:30歳代	18	-	-	5.6	38.9	55.6	-	-	94.5	-	-	-	72.2	22.2	5.6	-	-	94.4
	女性:40歳代	14	-	-	-	21.4	78.6	-	-	100.0	-	-	-	57.1	42.9	-	-	-	100.0
	女性:50歳以上	4	-	-	-	25.0	50.0	-	25.0	75.0	-	-	25.0	25.0	50.0	-	-	-	75.0
	男性:20歳代	40	-	-	25.0	45.0	12.5	17.5	-	57.5	-	5.0	22.5	45.0	5.0	22.5	-	-	50.0
	男性:30歳代	65	1.5	-	21.5	53.8	21.5	1.5	-	75.3	4.6	6.2	29.2	44.6	10.8	3.1	1.5	10.8	55.4
	男性:40歳代	37	-	8.1	8.1	51.4	24.3	8.1	-	8.1	75.7	-	10.8	24.3	45.9	2.7	16.2	-	10.8
	男性:50歳以上	88	-	1.1	10.2	64.8	19.3	2.3	2.3	84.1	-	1.1	23.9	59.1	9.1	4.5	2.3	1.1	68.2
	無回答	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-

3. 女性が職業をもつことについて

問3. 一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(印は1つ)

女性の職業のもち方について、継続派が約半数を占める。
男女とも前回調査に比べ、女性の職業継続志向は高まっている。

図1 - 3 女性が職業をもつことについて [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業をもつことについてたずねたところ、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派が48.8%と約半数を占めている。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派が25.4%となっている。「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」といった中断派はわずかである。

性別にみると、女性は「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が64.9%と6割を超え、男性(44.8%)よりも20.1ポイント高くなっている。一方、男性は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が28.3%と女性(14.0%)よりも14.3ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男女とも「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派は女性で6.3ポイント、男性で7.9ポイント増えており、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派は女性で16ポイント、男性で5.5ポイント減少し、女性のみならず男性にも女性の職業継続志向は高まってきている。

属性別特徴

年代別にみると、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派は女性では年齢が高い層で多く、40歳代で85.7%、50歳以上でも75.0%と4分の3以上を占めている。一方、男性は30歳代で50.8%、20歳代で45.0%と、40歳代以下でやや高くなっている。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は男性の年齢が高い層で多くっており、50歳以上で38.6%と最も高くなっている。

表1 - 3 女性が職業をもつことについて [全体、年代別]

		標本数	が女性 いは職業 をもたない 方	つ結 婚がす るよ いま では 職業 をも	業子 をも つ方 がよ い ま では 職	びや 職め 業ども を、も も つ 方 が よ い ま では 再	子ど もが でき る ま では 再	よ い つ や 仕 事 を に 続 け る 方 が、	結 婚 と や 出 産 に 関 わ ら ず	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体		287 100.0	2 0.7	5 1.7	4 1.4	73 25.4	140 48.8	31 10.8	30 10.5	2 0.7		
年代別	女性:20歳代	19	-	-	-	15.8	52.6	21.1	10.5	-		
	女性:30歳代	18	-	-	-	22.2	61.1	5.6	11.1	-		
	女性:40歳代	14	-	-	-	-	85.7	14.3	-	-		
	女性:50歳以上	4	-	-	-	25.0	75.0	-	-	-		
	男性:20歳代	40	-	2.5	2.5	17.5	45.0	15.0	17.5	-		
	男性:30歳代	65	-	-	-	23.1	50.8	12.3	13.8	-		
	男性:40歳代	37	-	-	2.7	24.3	43.2	13.5	10.8	5.4		
	男性:50歳以上	88	2.3	4.5	2.3	38.6	40.9	5.7	5.7	-		
	無回答	2	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-		

第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況

(1) 家庭内の役割分担

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問4. あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。(ア)～(ケ)の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。
(印はそれぞれ1つ)

「家計を支える」は『夫中心』、「家事」「家計の管理」「育児」「介護」は『妻中心』の傾向がある。

図2-1(1) 家庭内の役割分担 [全体、性別]

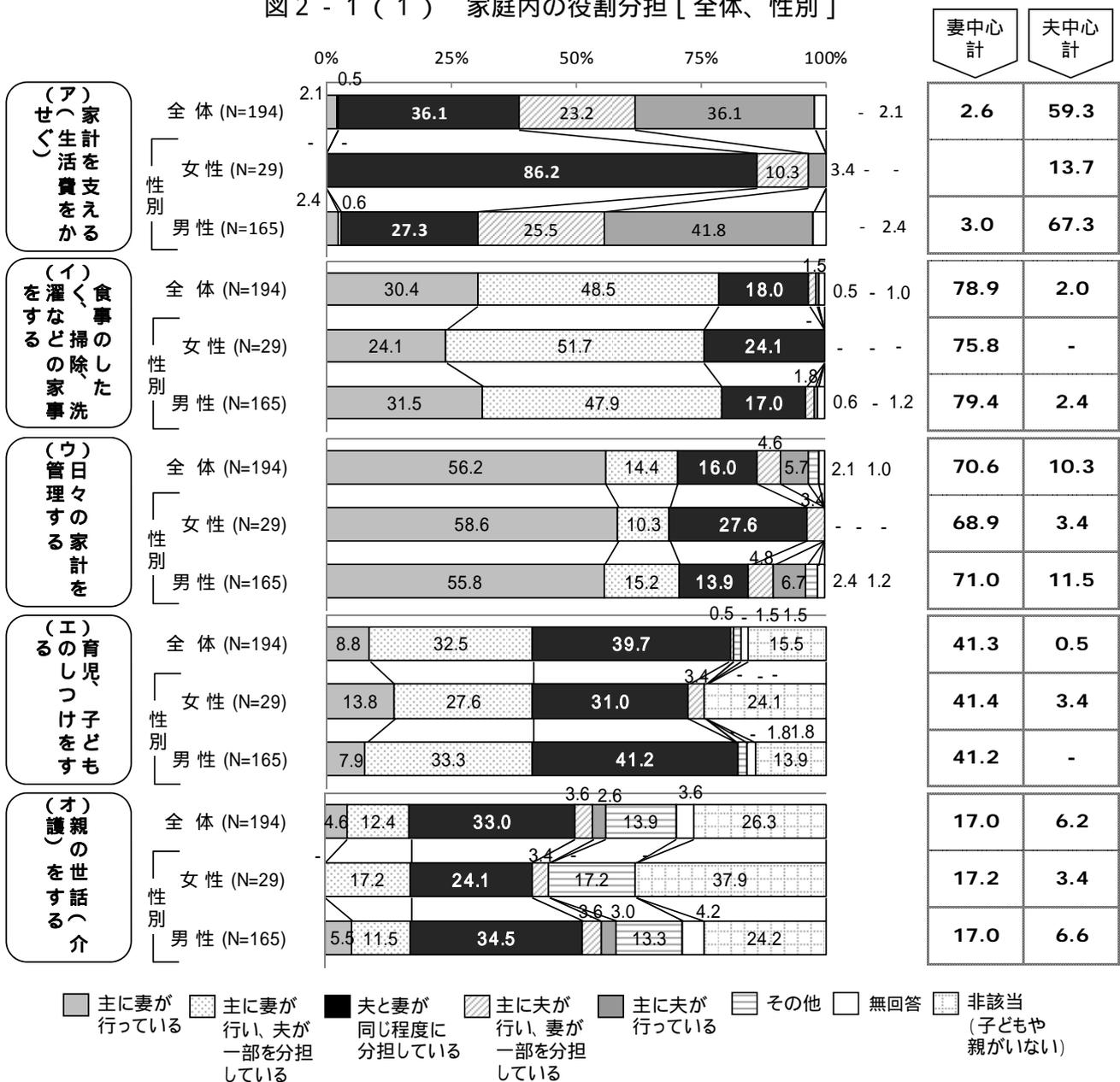
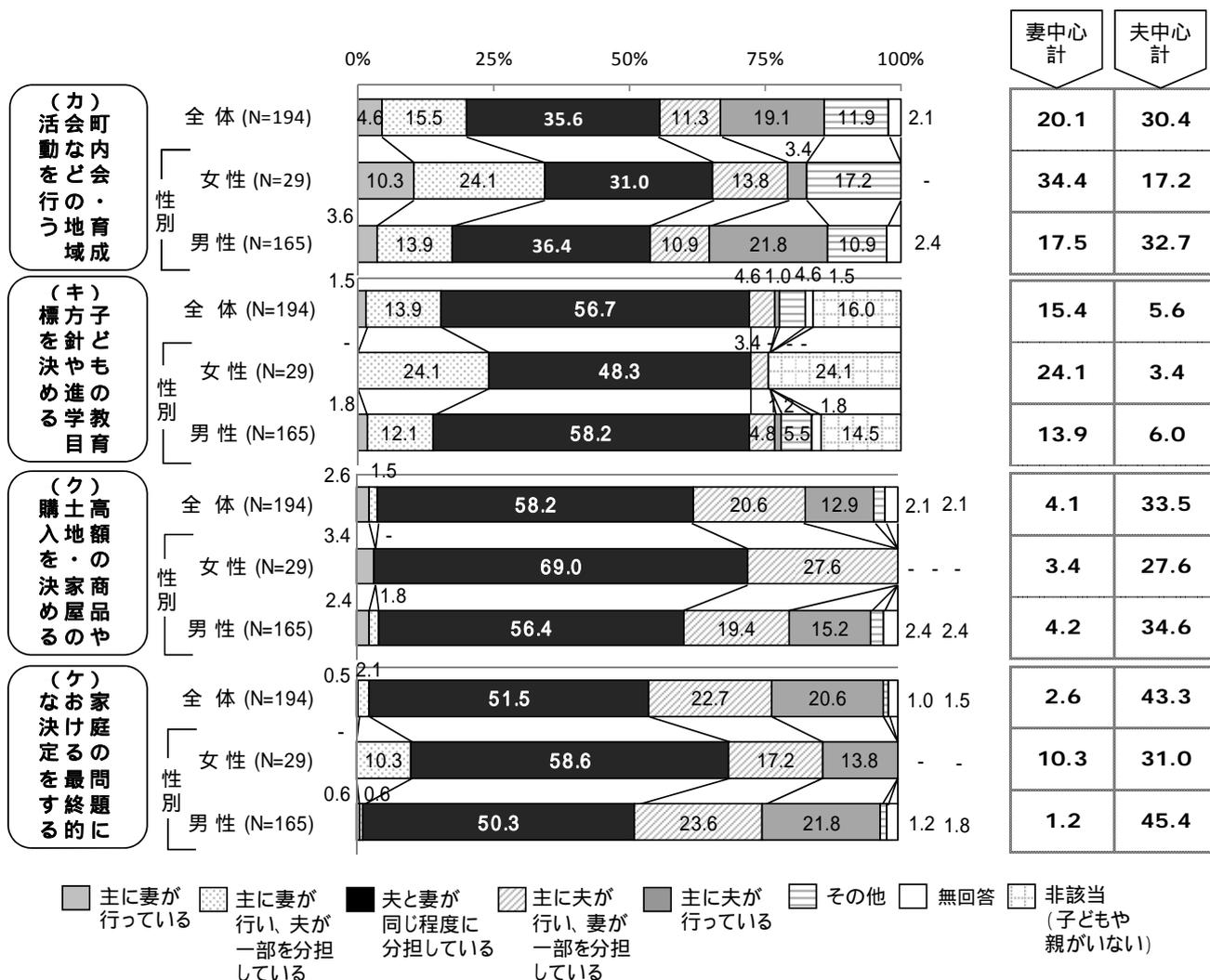


図2-1(2) 家庭内の役割分担 [全体、性別]



配偶者・パートナーがいる人に9種類の家庭内の仕事を主に夫と妻のどちらがやっているかをたずねた。

「(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める」「(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする」などでは「夫と妻が同じ程度に分担している」が5割以上と高いが、一方で「(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする」においては「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」を合わせた『夫中心』が3割から4割を占めている。

「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」などの日常的なことは、「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」を合わせた『妻中心』が7割を超えて高い。また「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」「(エ)育児、子どものしつけをする」「(オ)親の世話(介護)をする」「(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う」などは「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が3割台と高い方であるが、「(エ)育児、子どものしつけをする」「(オ)親の世話(介護)をする」は『妻中心』の傾向、「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」「(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う」は『夫中心』の傾向がある。

調査結果の分析 町職員

性別にみると、「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」は女性では「夫と妻が同じ程度に分担している」が86.2%と高率であるが、男性は27.3%で『夫中心』が67.3%となっている。「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」「(エ)育児、子どものしつけをする」などは男女とも『妻中心』の割合が高く、「(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う」は、女性は妻が行っているという認識が高いが、男性は同程度に分担や『夫中心』という自己評価が高くなっている。

属性別特徴

女性の職業のもち方別にみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派や「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」といった中断派は「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」においては『夫中心』、「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」では『妻中心』の割合が高くなる傾向がみられる。

表2-1(1) 家庭内の役割分担 [全体、女性の職業のもち方別]

		(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)										(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする											
		主		主		分		主		主		主		主		主		主		主		主	
		に		に		担		に		に		に		に		に		に		に		に	
		妻		妻		と		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		同		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		じ		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		程		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		度		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		い		い		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		る		る		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		夫		夫		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		が		が		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		行		行		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		っ		っ		に		に		に		に		に		に		に		に		に	
		て		て		に		に															

表2-1(2) 家庭内の役割分担 [全体、女性の職業のもち方別]

		(オ)親の世話(介護)をする										(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う									
		主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	非該当(子どもや親がいらない)	無回答	妻中心計	夫中心計	主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計	
全体		194 100.0	9 4.6	24 12.4	64 33.0	7 3.6	5 2.6	27 13.9	51 26.3	7 3.6	33 17.0	12 6.2	9 4.6	30 15.5	69 35.6	22 11.3	37 19.1	23 11.9	4 2.1	39 20.1	59 30.4
女性の職業のもち方別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	4	25.0	-	25.0	50.0	-	-	-	-	25.0	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0
	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	59	8.5	11.9	37.3	1.7	1.7	8.5	25.4	5.1	20.4	3.4	1.7	11.9	35.6	16.9	22.0	8.5	3.4	13.6	38.9
	結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい	88	2.3	14.8	29.5	4.5	3.4	14.8	26.1	4.5	17.1	7.9	4.5	17.0	35.2	10.2	18.2	13.6	1.1	21.5	28.4
その他	23	4.3	13.0	30.4	-	-	26.1	26.1	-	17.3	-	4.3	17.4	30.4	4.3	17.4	21.7	4.3	21.7	21.7	
わからない	15	-	6.7	40.0	-	-	20.0	33.3	-	6.7	-	13.3	26.7	40.0	13.3	-	6.7	-	40.0	13.3	
無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	13.3
		(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める										(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める									
		主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	非該当(子どもや親がいらない)	無回答	妻中心計	夫中心計	主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計	
全体		194 100.0	3 1.5	27 13.9	110 56.7	9 4.6	2 1.0	9 4.6	31 16.0	3 1.5	30 15.4	11 5.6	5 2.6	3 1.5	113 58.2	40 20.6	25 12.9	4 2.1	4 2.1	8 4.1	65 33.5
女性の職業のもち方別	女性は職業をもたない方がよい	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	4	-	25.0	75.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-	25.0
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	59	1.7	10.2	64.4	1.7	-	3.4	15.3	3.4	11.9	1.7	1.7	1.7	59.3	16.9	16.9	-	3.4	3.4	33.8
	結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい	88	-	18.2	56.8	4.5	2.3	1.1	15.9	1.1	18.2	6.8	3.4	1.1	63.6	21.6	6.8	2.3	1.1	4.5	28.4
その他	23	4.3	4.3	34.8	8.7	-	21.7	26.1	-	8.6	8.7	4.3	-	47.8	21.7	17.4	4.3	4.3	4.3	39.1	
わからない	15	-	20.0	53.3	6.7	-	6.7	13.3	-	20.0	6.7	-	6.7	40.0	26.7	20.0	6.7	-	6.7	46.7	
無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
		(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする																			
		主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計											
全体		194 100.0	1 0.5	4 2.1	100 51.5	44 22.7	40 20.6	2 1.0	3 1.5	5 2.6	84 43.3										
女性の職業のもち方別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0										
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	4	-	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	50.0										
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0										
	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	59	-	-	50.8	22.0	23.7	-	3.4	-	45.7										
	結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい	88	-	3.4	54.5	23.9	18.2	-	-	3.4	42.1										
その他	23	4.3	-	52.2	17.4	17.4	4.3	4.3	4.3	34.8											
わからない	15	-	6.7	46.7	20.0	20.0	6.7	-	6.7	40.0											
無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0										

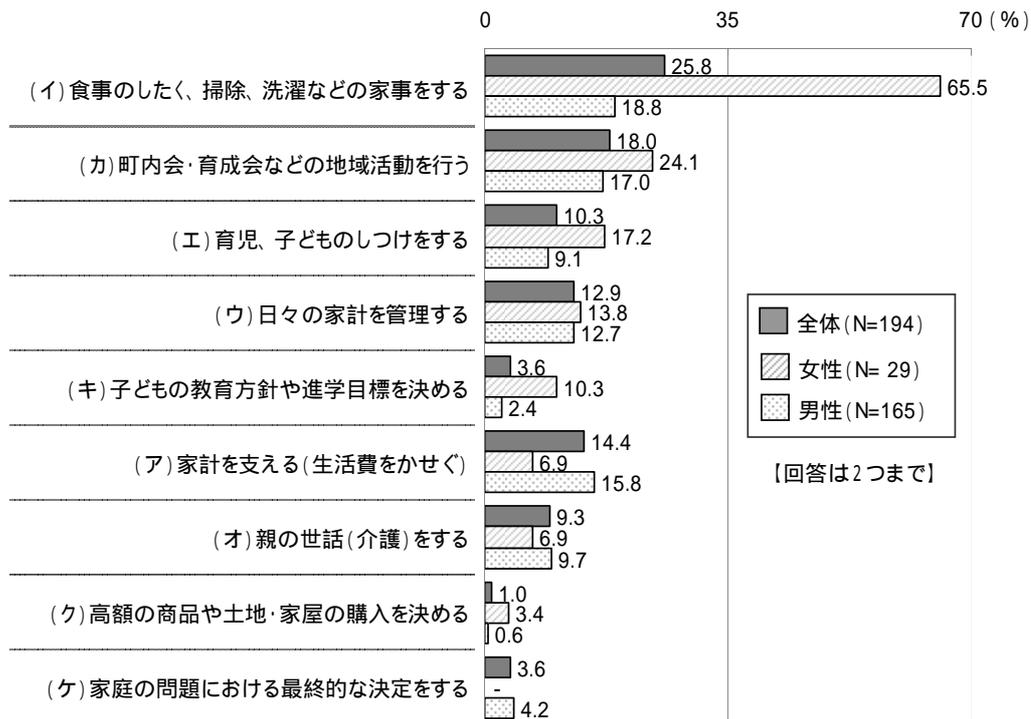
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問4 .また、あなたが、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。問4の(ア)~(ケ)のうち、主なものを2つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

女性は日常的な家事、育児・しつけ、地域活動に夫側の参画を求めている。

図2-2 配偶者にもっとしてもらいたいこと [全体、性別]



先述の9種類の家庭内の仕事について、配偶者にもっとしてもらいたいものとして2つまで選んでもらった。

女性は「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」(女性 65.5%、男性 18.8%) が圧倒的に高く、また「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」(同 24.1%、17.0%)、「(エ) 育児、子どものしつけをする」(同 17.2%、9.1%)なども女性の方が高くなっており、日常的な家事、育児・しつけ、地域活動などについて夫の参画を妻が求めていることがわかる。一方、男性は「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」(同 6.9%、15.8%)が女性よりも8.9ポイント高い。

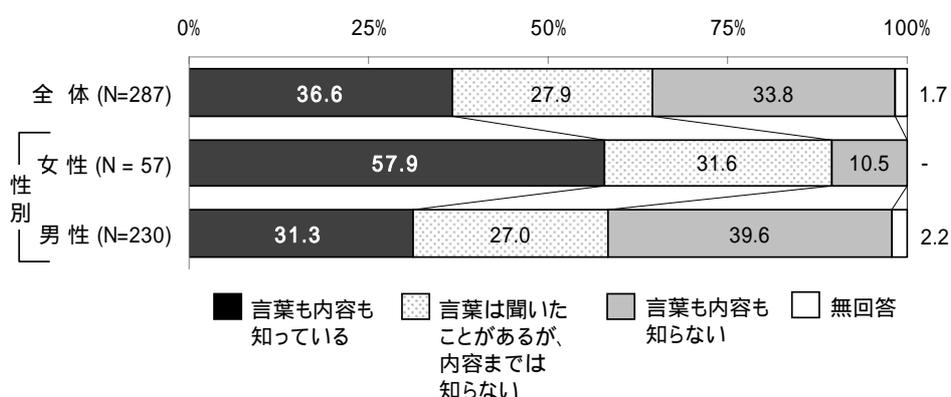
第3章 職業について

1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度

問5. あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について知っていますか。
（印は1つ）

「言葉も内容も知っている」は女性が約6割であるのに対し、男性は約3割。

図3-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、性別]



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知について、「言葉も内容も知っている」は36.6%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は27.9%と言葉の認知度は64.5%と約3分の2を占めている。一方、「言葉も内容も知らない」は33.8%となっている。

性別にみると、女性は「言葉も内容も知っている」が57.9%と男性（31.3%）より26.6ポイントも高く、言葉の認知度も89.5%と約9割であるのに対し、男性は58.3%と31.2ポイント低い。

属性別特徴

年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性では各年代とも5割以上であるが、男性は20歳代の45.0%が最も高い。また、男性の40歳代では「言葉も内容も知らない」が54.1%と5割を超えている。

表3-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、年代別]

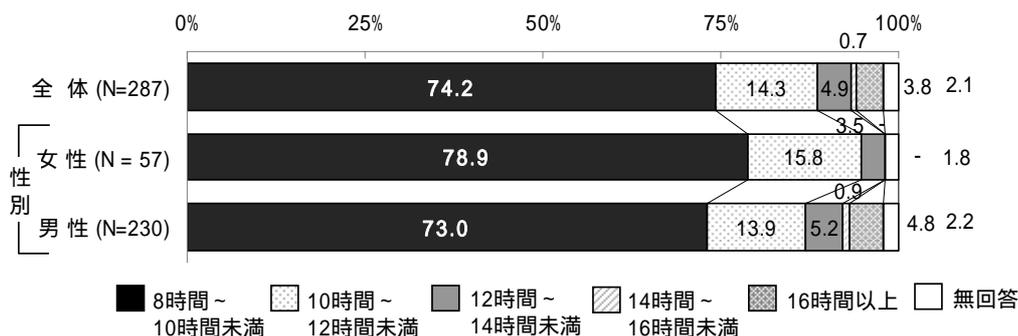
		標本数	言葉も内容も知っている (%)	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない (%)	言葉も内容も知らない (%)	無回答 (%)
全体		287 100.0	105 36.6	80 27.9	97 33.8	5 1.7
年代別	女性:20歳代	19	57.9	36.8	5.3	-
	女性:30歳代	18	50.0	33.3	16.7	-
	女性:40歳代	14	57.1	28.6	14.3	-
	女性:50歳以上	4	75.0	25.0	-	-
	男性:20歳代	40	45.0	20.0	35.0	-
	男性:30歳代	65	33.8	26.2	40.0	-
	男性:40歳代	37	27.0	18.9	54.1	-
	男性:50歳以上	88	25.0	34.1	35.2	5.7
無回答		2	100.0	-	-	-

2. 一日の勤務時間（通勤時間含む）

問6 .あなたのふだんの一日の勤務時間と通勤時間を合計すると、何時間ぐらいになりますか。
今年度に入ってからので、残業時間も含めてお答えください。

一日の勤務時間は「8時間～10時間未満」が男女とも7割超。
男性の20歳代で勤務時間が長い。

図3 - 2 一日の勤務時間（通勤時間含む）[全体、性別]



通勤時間を含む一日の勤務時間をたずねたところ、「8時間～10時間未満」が74.2%と最も多い。次いで「10時間～12時間未満」が14.3%となっている。

性別にみると、男女とも「8時間～10時間未満」(女性78.9%、男性73.0%)が最も多く、次いで「10時間～12時間未満」(同15.8%、13.9%)で、『12時間未満』では女性の方が7.8ポイント多い。一方、男性は「12時間～14時間未満」(5.2%)や「14時間～16時間未満」(0.9%)、「16時間以上」(4.8%)など『12時間以上』の長時間勤務が1割程度みられる。

属性別特徴

年代別にみると、男性の20歳代で「8時間～10時間未満」が40.0%と最も低く、「12時間～14時間未満」が22.5%、「16時間以上」も17.5%と通勤時間を含めた勤務時間が長い。

表3 - 2 一日の勤務時間（通勤時間含む）[全体、年代別]

		標本数	18時間未満	1120時間未満	1142時間未満	1164時間未満	16時間以上	無回答
全体		287	213	41	14	2	11	6
		100.0	74.2	14.3	4.9	0.7	3.8	2.1
年代別	女性:20歳代	19	78.9	21.1	-	-	-	-
	女性:30歳代	18	83.3	16.7	-	-	-	-
	女性:40歳代	14	64.3	14.3	14.3	-	-	7.1
	女性:50歳以上	4	100.0	-	-	-	-	-
	男性:20歳代	40	40.0	15.0	22.5	5.0	17.5	-
	男性:30歳代	65	75.4	18.5	1.5	-	4.6	-
	男性:40歳代	37	70.3	21.6	5.4	-	2.7	-
	男性:50歳以上	88	87.5	6.8	-	-	-	5.7
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-

3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問7. ふだんの生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

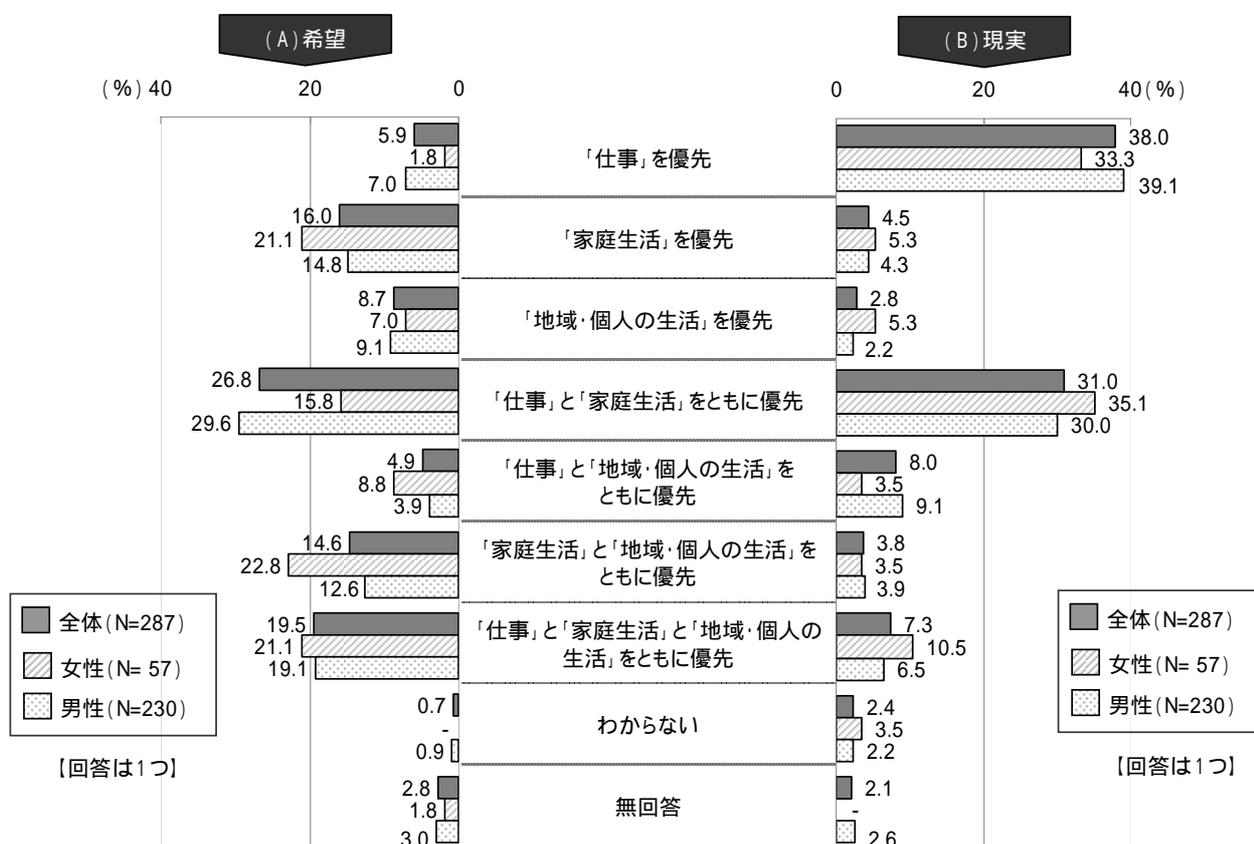
(A) あなたの希望に最も近いもの

(B) あなたの現実(現状)に最も近いもの

について、それぞれあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

希望は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」、現実には「「仕事」を優先」「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」。

図3-3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別]



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を希望と現実に分けてたずねた。

希望では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が26.8%と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」(19.5%)、「家庭生活」を優先」(16.0%)、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」(14.6%)となっている。

現実となると「「仕事」を優先」(38.0%)と「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」(31.0%)が3割台と高い。希望で第2位にあげられた「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」は実際の生活では7.3%、第3位にあげられた「「家庭生活」を優先」は4.5%、第4位にあげられた「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」は3.8%と、希望と現実との差は大きい。

性別にみると、女性は「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(女性 22.8%、男性 12.6%)、男性は「仕事」と「家庭生活」をともに優先(同 15.8%、29.6%)が希望の第1位となっており、現実には男女とも「仕事」を優先(同 33.3%、39.1%)、「仕事」と「家庭生活」をともに優先(同 35.1%、30.0%)が上位で、男性の場合希望と現実が合致している人が女性よりも多いようである。

属性別特徴

年代別にみると、現実では女性の20歳代と40歳代、男性の50歳以上で「仕事」を優先の割合が4割以上と高い。

表3-3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度[全体、年代別]

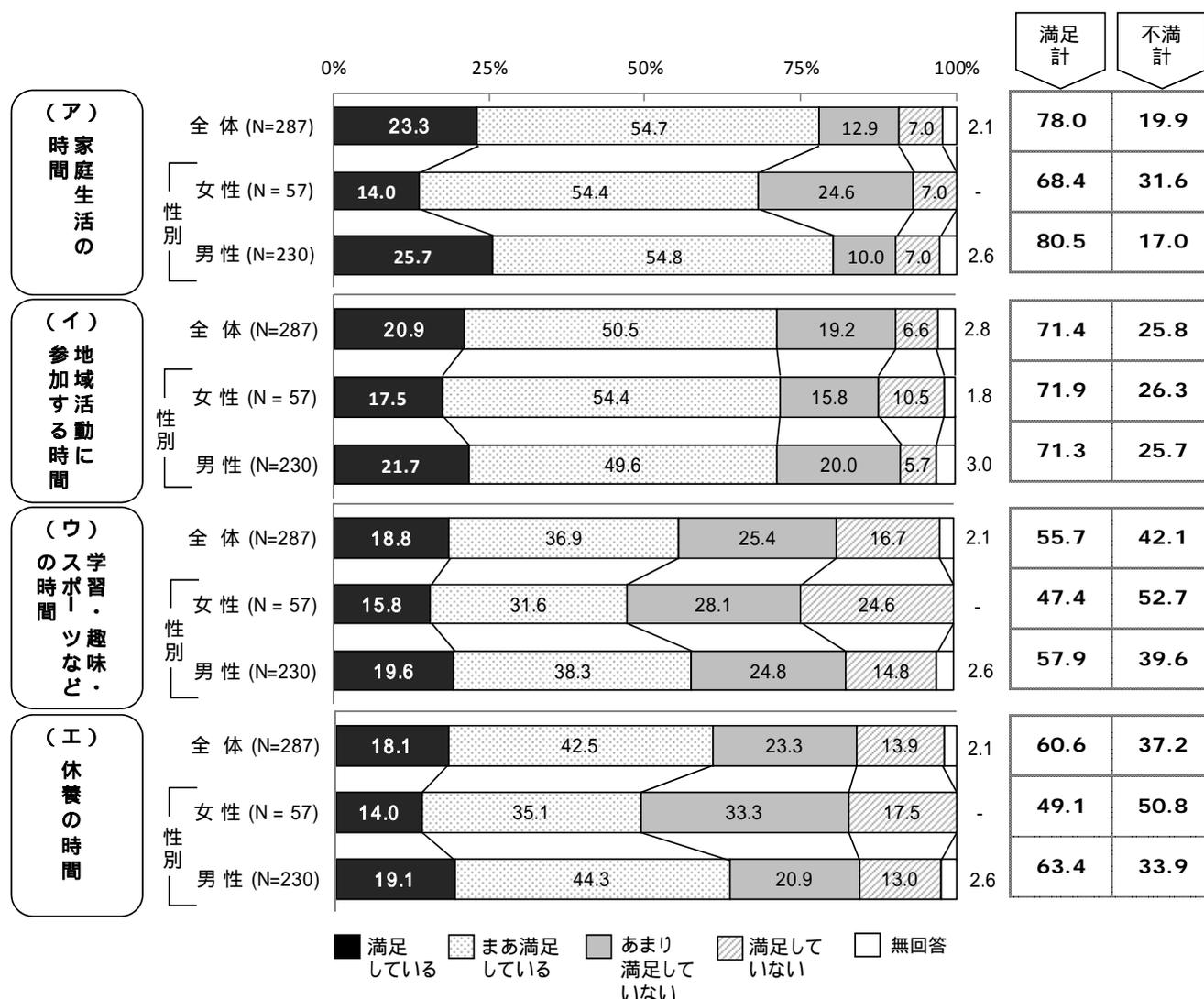
		(%)									
		標本数	(A)希望								無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	ともに「仕事」と「家庭生活」を優先	生「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	個「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	も「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	
全体		287 100.0	17 5.9	46 16.0	25 8.7	77 26.8	14 4.9	42 14.6	56 19.5	2 0.7	8 2.8
年代別	女性:20歳代	19	-	21.1	5.3	15.8	26.3	15.8	15.8	-	-
	女性:30歳代	18	-	22.2	5.6	11.1	-	33.3	22.2	-	5.6
	女性:40歳代	14	7.1	28.6	-	21.4	-	14.3	28.6	-	-
	女性:50歳以上	4	-	-	-	25.0	-	50.0	25.0	-	-
	男性:20歳代	40	5.0	7.5	15.0	32.5	5.0	20.0	12.5	2.5	-
	男性:30歳代	65	4.6	16.9	9.2	23.1	4.6	13.8	26.2	1.5	-
	男性:40歳代	37	8.1	27.0	5.4	29.7	-	13.5	16.2	-	-
	男性:50歳以上	88	9.1	11.4	8.0	33.0	4.5	8.0	18.2	-	8.0
無回答		2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
		標本数	(B)現実								無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	ともに「仕事」と「家庭生活」を優先	生「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	個「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	も「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	
全体		287 100.0	109 38.0	13 4.5	8 2.8	89 31.0	23 8.0	11 3.8	21 7.3	7 2.4	6 2.1
年代別	女性:20歳代	19	42.1	-	5.3	26.3	5.3	10.5	-	10.5	-
	女性:30歳代	18	22.2	16.7	-	33.3	5.6	-	22.2	-	-
	女性:40歳代	14	42.9	-	-	50.0	-	-	7.1	-	-
	女性:50歳以上	4	25.0	-	-	50.0	-	-	25.0	-	-
	男性:20歳代	40	35.0	2.5	7.5	22.5	17.5	5.0	2.5	7.5	-
	男性:30歳代	65	36.9	6.2	-	30.8	12.3	4.6	7.7	1.5	-
	男性:40歳代	37	35.1	5.4	-	43.2	2.7	8.1	5.4	-	-
	男性:50歳以上	88	44.3	3.4	2.3	27.3	5.7	1.1	8.0	1.1	6.8
無回答		2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

4. 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度

問8. あなたは、ふだんの生活の中で「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間に満足していますか。次の(ア)～(エ)の項目ごとに、あなたの認識に最も近いものを選んでください。(印は1つずつ)

家庭生活、学習や趣味、休養の時間では女性の『不満』が高い。
女性の40歳代の『不満』が他の年代に比べて高い。

図3-4 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度 [全体、性別]



「(ア) 家庭生活」「(イ) 地域活動」「(ウ) 学習・趣味・スポーツなど」「(エ) 休養」に使う時間の満足度をたずねた。いずれも「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足』の割合が「満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた『不満』の割合を上回っており、「(ア) 家庭生活の時間」と「(イ) 地域活動に参加する時間」は『満足』が7割を超えて特に高い。また、「(ウ) 学習・趣味・スポーツなどの時間」「(エ) 休養の時間」も5割を超えている。

性別にみると「(イ)地域活動に参加する時間」の『満足』は男女とも約7割、『不満』は約25%と大差はみられない。しかし、「(ア)家庭生活の時間」「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」「(エ)休養の時間」では男女差がみられ、男性の『満足』はいずれも5割を超えており、特に「(ア)家庭生活の時間」は80.5%と高率であるのに対し、女性は68.4%、「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」「(エ)休養の時間」では4割台で『不満』の方が約5割と『満足』を上回っている。家庭生活や学習・趣味、休養の時間などでは女性の不満の方が高いという結果となっている。

属性別特徴

年代別にみると、「(ア)家庭生活の時間」では女性の30歳代と40歳代の『不満』は3割台後半と高い。また、女性の40歳代では「(イ)地域活動に参加する時間」「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」「(エ)休養の時間」の『不満』の割合が他の年代に比べて高く、「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」では92.9%、「(エ)休養の時間」では85.7%と高率である。

表3-4 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度 [全体、年代別]

		標本数	(ア)家庭生活の時間							(イ)地域活動に参加する時間						
			満足している	まあまあ満足している	まあいい満足している	満足していない	無回答	満足計	不満計	満足している	まあまあ満足している	まあいい満足している	満足していない	無回答	満足計	不満計
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		287 100.0	67 23.3	157 54.7	37 12.9	20 7.0	6 2.1	224 78.0	57 19.9	60 20.9	145 50.5	55 19.2	19 6.6	8 2.8	205 71.4	74 25.8
年代別	女性:20歳代	19	26.3	47.4	26.3	-	-	73.7	26.3	31.6	52.6	5.3	10.5	-	84.2	15.8
	女性:30歳代	18	5.6	55.6	27.8	11.1	-	61.2	38.9	11.1	61.1	16.7	11.1	-	72.2	27.8
	女性:40歳代	14	-	64.3	28.6	7.1	-	64.3	35.7	-	50.0	28.6	14.3	7.1	50.0	42.9
	女性:50歳以上	4	25.0	50.0	-	25.0	-	75.0	25.0	25.0	50.0	25.0	-	-	75.0	25.0
	男性:20歳代	40	52.5	32.5	7.5	7.5	-	85.0	15.0	47.5	27.5	12.5	12.5	-	75.0	25.0
	男性:30歳代	65	24.6	55.4	12.3	6.2	1.5	80.0	18.5	24.6	52.3	16.9	3.1	3.1	76.9	20.0
	男性:40歳代	37	21.6	62.2	10.8	5.4	-	83.8	16.2	24.3	56.8	13.5	5.4	-	81.1	18.9
	男性:50歳以上	88	15.9	61.4	9.1	8.0	5.7	77.3	17.1	6.8	54.5	28.4	4.5	5.7	61.3	32.9
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-
		標本数	(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間							(エ)休養の時間						
満足している	まあまあ満足している		まあいい満足している	満足していない	無回答	満足計	不満計	満足している	まあまあ満足している	まあいい満足している	満足していない	無回答	満足計	不満計		
全体		287 100.0	54 18.8	106 36.9	73 25.4	48 16.7	6 2.1	160 55.7	121 42.1	52 18.1	122 42.5	67 23.3	40 13.9	6 2.1	174 60.6	107 37.2
年代別	女性:20歳代	19	15.8	52.6	21.1	10.5	-	68.4	31.6	15.8	52.6	31.6	-	-	68.4	31.6
	女性:30歳代	18	22.2	27.8	22.2	27.8	-	50.0	50.0	16.7	38.9	27.8	16.7	-	55.6	44.5
	女性:40歳代	14	-	7.1	50.0	42.9	-	7.1	92.9	-	14.3	50.0	35.7	-	14.3	85.7
	女性:50歳以上	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-	50.0	50.0	25.0	-	25.0	50.0	-	25.0	75.0
	男性:20歳代	40	47.5	22.5	12.5	17.5	-	70.0	30.0	47.5	27.5	15.0	10.0	-	75.0	25.0
	男性:30歳代	65	16.9	32.3	30.8	18.5	1.5	49.2	49.3	12.3	44.6	24.6	16.9	1.5	56.9	41.5
	男性:40歳代	37	21.6	43.2	18.9	16.2	-	64.8	35.1	18.9	37.8	27.0	16.2	-	56.7	43.2
	男性:50歳以上	88	8.0	47.7	28.4	10.2	5.7	55.7	38.6	11.4	54.5	18.2	10.2	5.7	65.9	28.4
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-

第4章 暴力などの人権侵害について

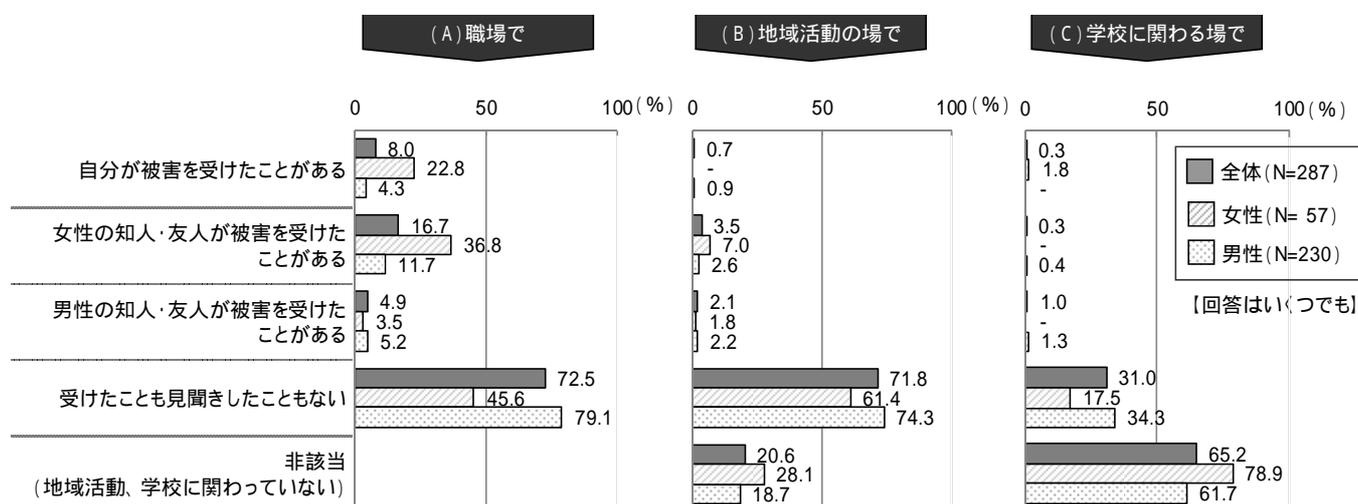
1. セクシュアル・ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き

問9. 最近3年間くらいの中に、(A)職場、(B)地域活動の場、(C)学校に関わる場で、付問1であげたようなセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。(印はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントの被害や見聞きは「職場で」が約3割と最も多い。

図4-1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり、見聞きしたりしたことがあるかどうかたずねた。

いずれの場でも「受けたことも見聞きしたこともない」が最も多いが、「自分が被害を受けたことがある」や見聞きしたことがある割合は「(A) 職場で」が29.6%と最も多く、「(B) 地域活動の場で」は6.3%、「(C) 学校に関わる場で」は1.6%である。

性別で見ると、「自分が被害を受けたことがある」は女性の割合が高く、また、見聞きした場合も女性の知人・友人が被害にあったケースの割合が高い。

属性別特徴

年代別にみると、「(A) 職場で」の「自分が被害を受けたことがある」は女性の20歳代で31.6%、「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」は女性の40歳代で57.1%と最も高くなっている。

表 4 - 1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、年代別]

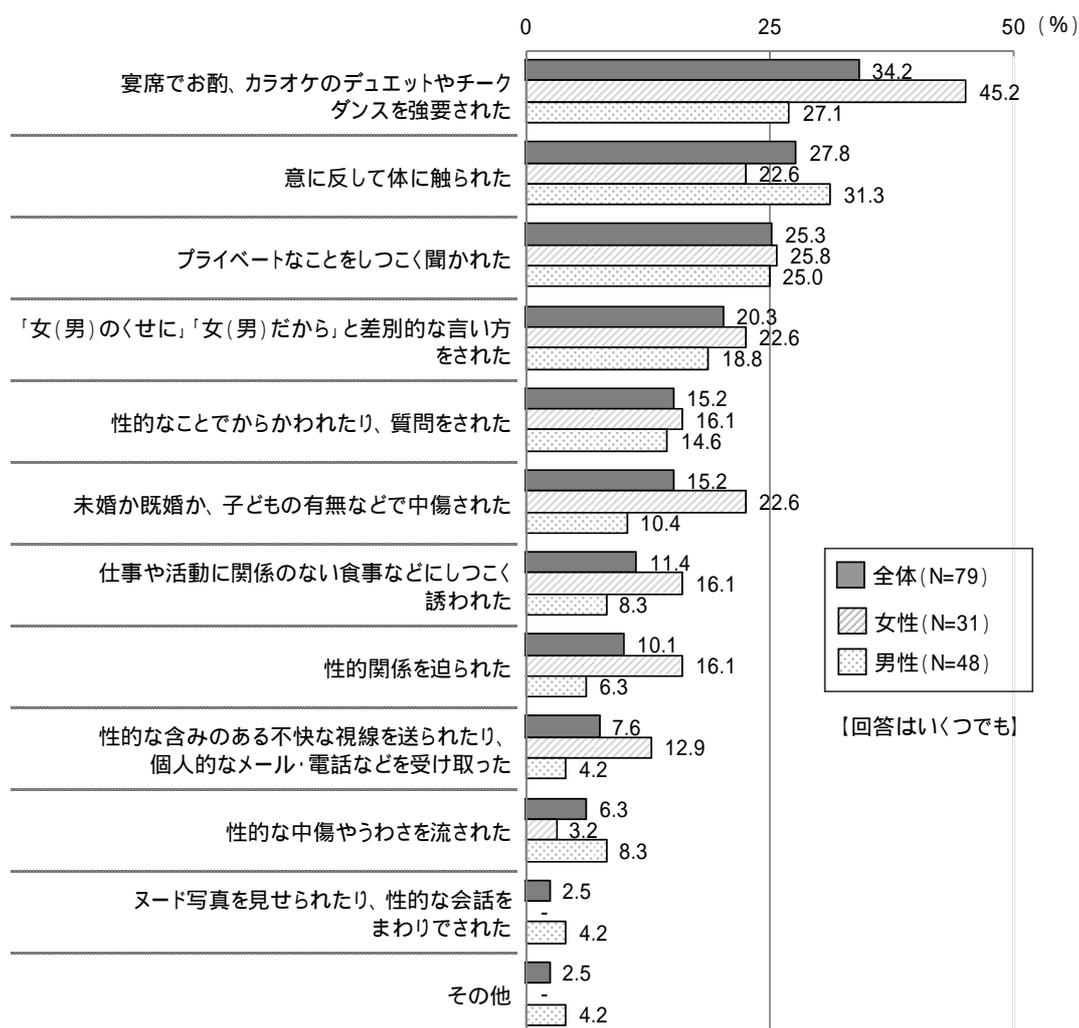
	標本数	(A)職場で					(B)地域活動の場で						(C)学校に関わる場で						
		自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	無回答	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当(地域活動に関わっていない)	無回答	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当(学校に関わっていない)	無回答	
全体	287 100.0	23 8.0	48 16.7	14 4.9	208 72.5	5 1.7	2 0.7	10 3.5	6 2.1	206 71.8	59 20.6	6 2.1	1 0.3	1 0.3	3 1.0	89 31.0	187 65.2	6 2.1	
年代別	女性:20歳代	19	31.6	31.6	-	47.4	-	-	5.3	-	63.2	31.6	-	-	-	-	100.0	-	
	女性:30歳代	18	22.2	33.3	11.1	50.0	-	-	5.6	5.6	55.6	33.3	-	-	-	11.1	88.9	-	
	女性:40歳代	14	7.1	57.1	-	35.7	-	-	14.3	-	71.4	7.1	7.1	-	-	50.0	35.7	7.1	
	女性:50歳以上	4	25.0	25.0	-	50.0	-	-	-	-	75.0	25.0	-	-	-	25.0	75.0	-	
	男性:20歳代	40	2.5	7.5	7.5	77.5	5.0	-	2.5	2.5	60.0	32.5	5.0	-	-	-	-	100.0	-
	男性:30歳代	65	6.2	20.0	4.6	73.8	-	-	3.1	1.5	67.7	26.2	1.5	-	1.5	-	21.5	76.9	-
	男性:40歳代	37	2.7	16.2	8.1	75.7	-	-	-	-	81.1	18.9	-	-	-	2.7	54.1	43.2	-
	男性:50歳以上	88	4.5	5.7	3.4	85.2	3.4	2.3	3.4	3.4	83.0	6.8	2.3	-	-	2.3	51.1	40.9	5.7
無回答	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	

(2) セクシュアル・ハラスメントの内容

問9付問1.【問9(A)(B)(C)で1～3のいずれかに1つでも○がついた方に】
それはどういったものでしたか。(印はいくつでも)

被害を受けたり見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容は「宴席でお酌、カラオケのデュエットやチークダンスを強要された」「意に反して体に触られた」「プライベートなことをしつこく聞かれた」などが上位。

図4-2 セクシュアル・ハラスメントの内容 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり見聞きをした人にその内容についてたずねた。

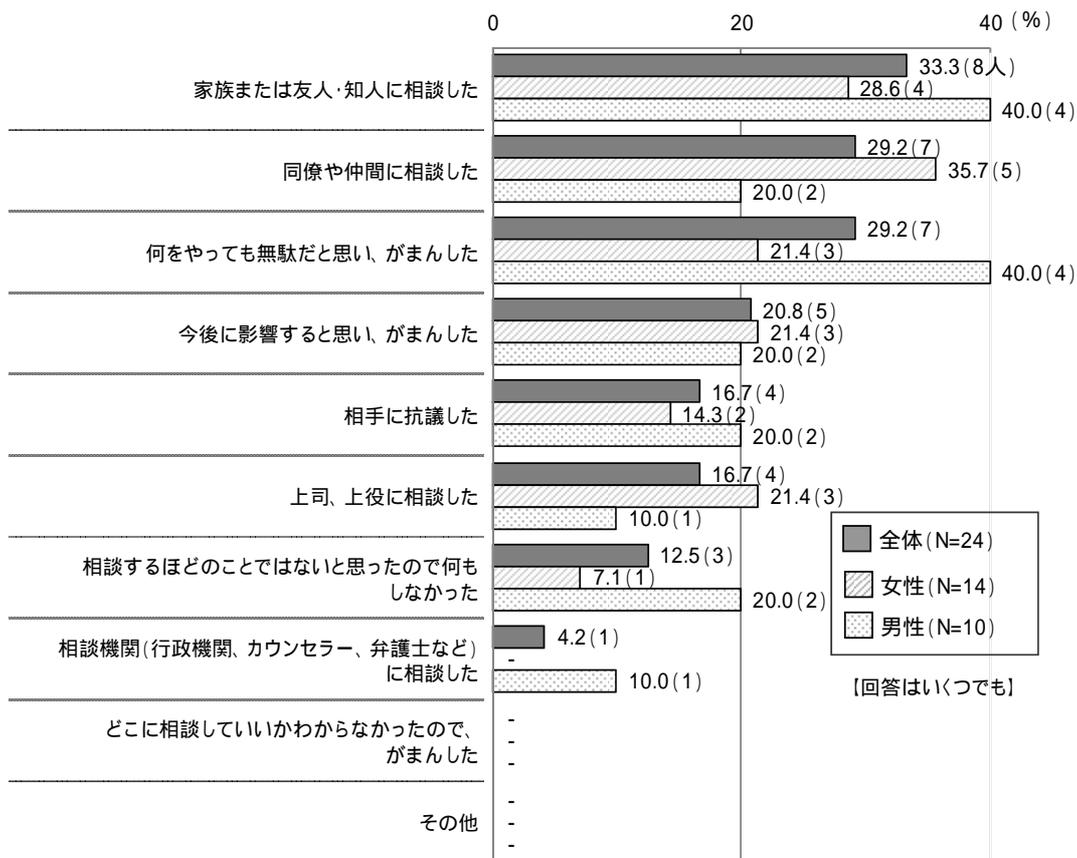
「宴席でお酌、カラオケのデュエットやチークダンスを強要された」(34.2%)、「意に反して体に触られた」(27.8%)、「プライベートなことをしつこく聞かれた」(25.3%)、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」(20.3%)などが上位にあがっている。

(3) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応

問9付問2.【問9(A)(B)(C)のいずれかで「1.自分が被害を受けたことがある」と答えた方に】その時あなたはどのように対応しましたか。(印はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応は家族や友人、同僚や仲間への相談がそれぞれ約3割。一方で、何をやっても無駄だと思い、がまんする人も約3割。

図4-3 セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を自分が受けたことがある人に、その時の対応についてたずねたところ、「家族または友人・知人に相談した」33.3% (8人)、「同僚や仲間に相談した」「何をやっても無駄だと思い、がまんした」同率 29.2% (7人)、「今後に影響すると思い、がまんした」20.8% (5人) などとなっている。

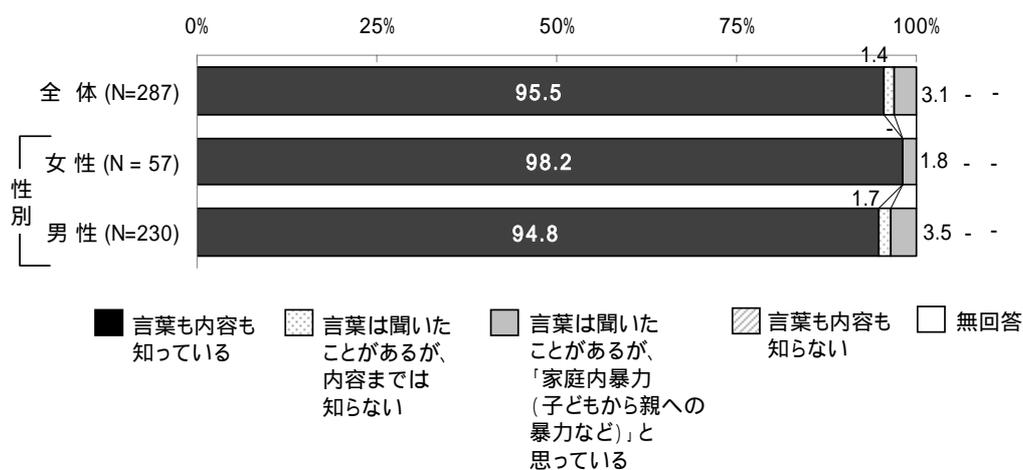
2. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの認知

問10. あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者・パートナーからの暴力)」について知っていますか。(印は1つ)

ドメスティック・バイオレンスについて「言葉も内容も知っている」が9割を超える。

図4-4 ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、性別]



ドメスティック・バイオレンスの認知について、「言葉も内容も知っている」が95.5%と最も多い。

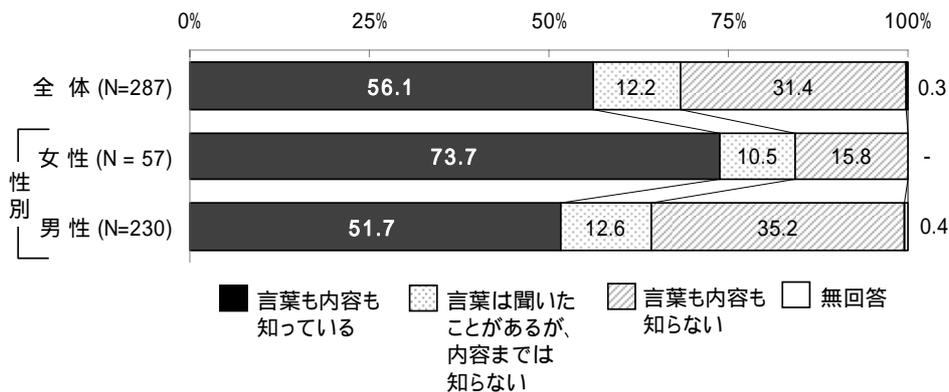
性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が98.2%、男性が94.8%とやや女性の方が多い。

(2)「デートDV」の認知

問11. 恋人関係にある者の間での暴力を、特に「デートDV」と言うことがあります、このことについて知っていますか。(印は1つ)

デートDVについて「言葉も内容も知っている」は56.1%と、ドメスティック・バイオレンスに比べ約4割低い。

図4-5 「デートDV」の認知 [全体、性別]



デートDVの認知について「言葉も内容も知っている」は56.1%とドメスティック・バイオレンスに比べ4割ほど低くなっている。「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は12.2%でデートDVという言葉の認知度は68.3%となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は31.4%となっている。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が73.7%、男性が51.7%と女性の方が22ポイント高い。

属性別特徴

年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性で年代が上がるにつれて高くなっている。女性の20歳代で「言葉も内容も知らない」が31.6%と女性の中で高いのが目立つ。

表4-2 「デートDV」の認知 [全体、年代別]

		標本数	知言葉も内容も	はがこ言 知、と葉 ら内がは な容あ聞 いまるい でた	知言葉も ら葉なも い内容も	無回答
全体		287 100.0	161 56.1	35 12.2	90 31.4	1 0.3
年代別	女性:20歳代	19	57.9	10.5	31.6	-
	女性:30歳代	18	72.2	16.7	11.1	-
	女性:40歳代	14	85.7	7.1	7.1	-
	女性:50歳以上	4	100.0	-	-	-
	男性:20歳代	40	52.5	7.5	40.0	-
	男性:30歳代	65	55.4	12.3	32.3	-
	男性:40歳代	37	45.9	10.8	40.5	2.7
	男性:50歳以上	88	51.1	15.9	33.0	-
無回答		2	100.0	-	-	-

(3) ドメスティック・バイオレンスと思う内容

問 12. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の(ア)～(ス)の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。(印は1つずつ)

「大声でどなる」「侮辱したり、ばかにしたりする」「交友関係やメールを監視する」などの精神的暴力で条件付きの暴力と認識する傾向がある。

図 4 - 6 (1) ドメスティック・バイオレンスと思う内容 [全体、性別]

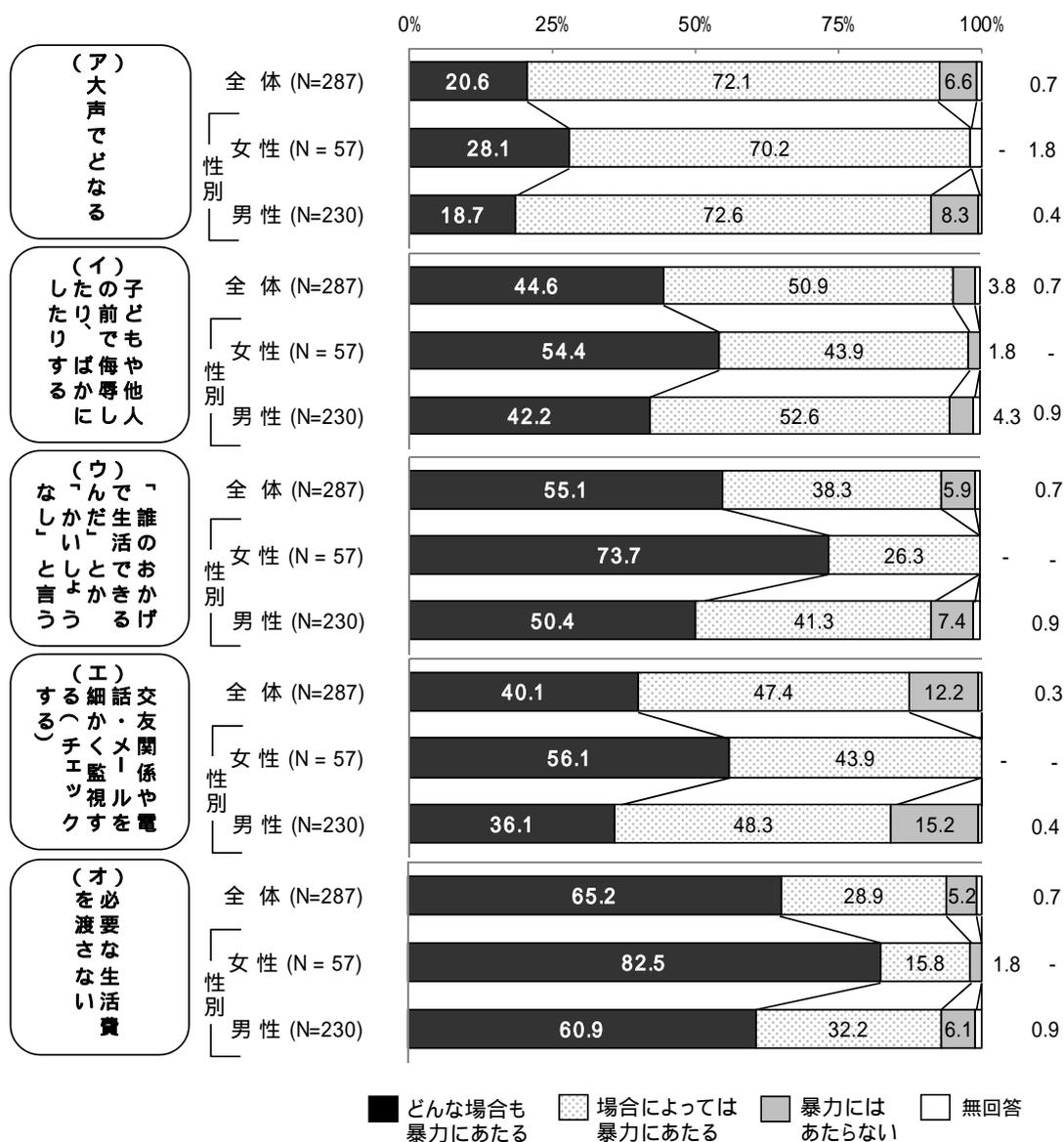
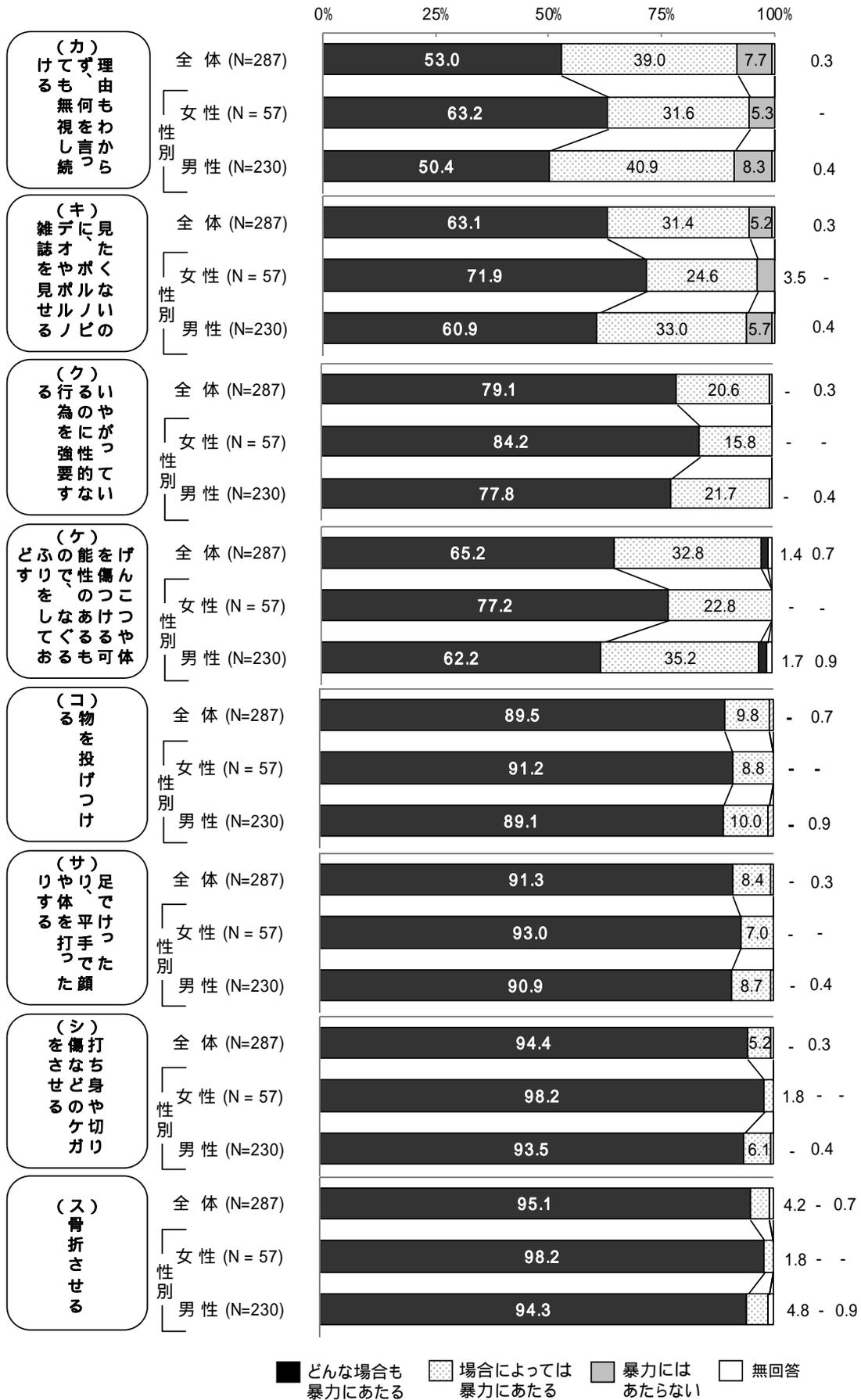


図4-6(2) ドメスティック・バイオレンスと思う内容 [全体、性別]



精神的・経済的・性的・身体的暴力 13 項目をあげ、配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それを暴力と思うかどうかたずねた。

「どんな場合も暴力にあたる」をみると「(コ)物を投げつける」(89.5%)、「(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」(91.3%)、「(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる」(94.4%)、「(ス)骨折させる」(95.1%)などの身体的暴力は9割前後と高率で、「(ア)大声でどなる」「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」以外の項目では「どんな場合も暴力にあたる」が最も高い割合となっている。「(ア)大声でどなる」「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」は「場合によっては暴力にあたる」の割合が「どんな場合も暴力にあたる」を上回り、「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」については「暴力にあたらぬ」が12.2%と1割を超えている。

性別にみると、いずれの項目も「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性の方が高く、男女差が大きいものとして「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」(女性73.7%、男性50.4%)で23.3ポイント、「(オ)必要な生活費を渡さない」(同82.5%、60.9%)で21.6ポイント、「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」(同56.1%、36.1%)で20ポイントの差がある。その他にも「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」などの精神的暴力、性的暴力、身体的暴力についても10ポイント以上の差がある。

属性別特徴

年代別に「どんな場合も暴力にあたる」の割合をみると、女性の20歳代と30歳代で「(ア)大声でどなる」「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」などが他の年代に比べて低くなっており、さらに20歳代では「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」、30歳代では「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」などの暴力も低くなっている。

男性の場合は、40歳代と50歳以上で「(ア)大声でどなる」「(オ)必要な生活費を渡さない」「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」などで「どんな場合も暴力にあたる」の割合が他の年代と比べると低く、さらに40歳代では「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」も低くなっている。

表4-3 ドメスティック・バイオレンスと思う内容〔全体、年代別〕

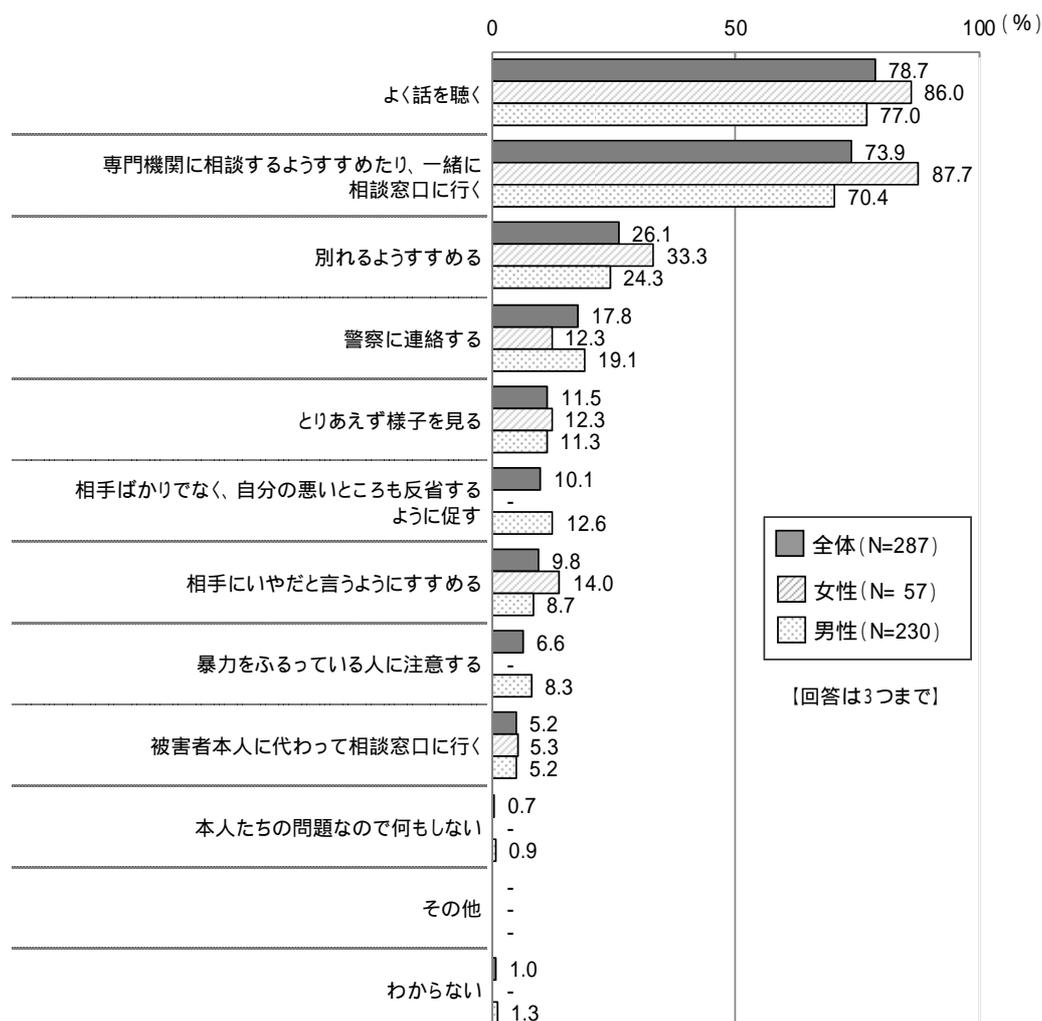
		(%)																				
		(ア)大声でどなる				(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする				(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う				(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)				(オ)必要な生活費を渡さない				
標本数		暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	
全体	287 100.0	59 20.6	207 72.1	19 6.6	2 0.7	128 44.6	146 50.9	11 3.8	2 0.7	158 55.1	110 38.3	17 5.9	2 0.7	115 40.1	136 47.4	35 12.2	1 0.3	187 65.2	83 28.9	15 5.2	2 0.7	
年代別	女性:20歳代	19	21.1	78.9	-	47.4	52.6	-	-	73.7	26.3	-	-	47.4	52.6	-	-	84.2	10.5	5.3	-	
	女性:30歳代	18	27.8	72.2	-	44.4	50.0	5.6	-	55.6	44.4	-	-	66.7	33.3	-	-	72.2	27.8	-	-	
	女性:40歳代	14	35.7	57.1	-	71.4	28.6	-	-	85.7	14.3	-	-	57.1	42.9	-	-	92.9	7.1	-	-	
	女性:50歳以上	4	50.0	50.0	-	75.0	25.0	-	-	100.0	-	-	-	75.0	25.0	-	-	75.0	25.0	-	-	
	男性:20歳代	40	20.0	70.0	10.0	-	45.0	47.5	7.5	-	50.0	40.0	7.5	2.5	37.5	50.0	12.5	-	62.5	30.0	7.5	-
	男性:30歳代	65	26.2	63.1	10.8	-	52.3	44.6	3.1	-	60.0	29.2	10.8	-	32.3	52.3	15.4	-	67.7	29.2	3.1	-
	男性:40歳代	37	10.8	78.4	8.1	2.7	24.3	67.6	5.4	2.7	45.9	43.2	8.1	2.7	37.8	40.5	18.9	2.7	56.8	35.1	5.4	2.7
	男性:50歳以上	88	15.9	78.4	5.7	-	40.9	54.5	3.4	1.1	45.5	50.0	4.5	-	37.5	47.7	14.8	-	56.8	34.1	8.0	1.1
無回答	2	-	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	
		(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける				(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する				(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす				(コ)物を投げつける				
標本数		暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	
全体	287 100.0	152 53.0	112 39.0	22 7.7	1 0.3	181 63.1	90 31.4	15 5.2	1 0.3	227 79.1	59 20.6	-	1 0.3	187 65.2	94 32.8	4 1.4	2 0.7	257 89.5	28 9.8	-	2 0.7	
年代別	女性:20歳代	19	63.2	36.8	-	78.9	15.8	5.3	-	89.5	10.5	-	-	78.9	21.1	-	-	94.7	5.3	-	-	
	女性:30歳代	18	50.0	33.3	16.7	55.6	38.9	5.6	-	72.2	27.8	-	-	55.6	44.4	-	-	88.9	11.1	-	-	
	女性:40歳代	14	78.6	21.4	-	78.6	21.4	-	-	92.9	7.1	-	-	92.9	7.1	-	-	85.7	14.3	-	-	
	女性:50歳以上	4	75.0	25.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	
	男性:20歳代	40	50.0	42.5	7.5	57.5	32.5	10.0	-	75.0	25.0	-	-	57.5	40.0	2.5	-	85.0	15.0	-	-	
	男性:30歳代	65	56.9	30.8	12.3	60.0	36.9	3.1	-	80.0	20.0	-	-	73.8	26.2	-	-	86.2	13.8	-	-	
	男性:40歳代	37	43.2	45.9	8.1	2.7	59.5	32.4	5.4	2.7	75.7	21.6	-	2.7	62.2	35.1	-	2.7	86.5	10.8	-	2.7
	男性:50歳以上	88	48.9	45.5	5.7	-	63.6	30.7	5.7	-	78.4	21.6	-	-	55.7	39.8	3.4	1.1	94.3	4.5	-	1.1
無回答	2	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	
		(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする				(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる				(ス)骨折させる												
標本数		暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答	暴力にあたる	場合による	ない	無回答									
全体	287 100.0	262 91.3	24 8.4	-	1 0.3	271 94.4	15 5.2	-	1 0.3	273 95.1	12 4.2	-	2 0.7									
年代別	女性:20歳代	19	94.7	5.3	-	94.7	5.3	-	-	94.7	5.3	-	-									
	女性:30歳代	18	88.9	11.1	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-									
	女性:40歳代	14	92.9	7.1	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-									
	女性:50歳以上	4	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-									
	男性:20歳代	40	87.5	12.5	-	92.5	7.5	-	-	90.0	10.0	-	-									
	男性:30歳代	65	89.2	10.8	-	92.3	7.7	-	-	93.8	6.2	-	-									
	男性:40歳代	37	86.5	10.8	-	2.7	91.9	5.4	-	2.7	94.6	2.7	-	2.7								
	男性:50歳以上	88	95.5	4.5	-	95.5	4.5	-	-	96.6	2.3	-	1.1									
無回答	2	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-										

(4) 相談を受けたときの対応

問13. あなたの身近な人から配偶者・パートナーや恋人から暴力を受けていると相談を受けたとき、どのように対応することが望ましいと思いますか。(印は3つまで)

ドメスティック・バイオレンスを受けていると相談を受けたとき「よく話を聴く」「専門機関に相談するようすすめたり、一緒に相談窓口に行く」が7割を超えて高い。

図4-7 相談を受けたときの対応 [全体、性別]



ドメスティック・バイオレンスを受けていると相談を受けたときの対応をたずねたところ、「よく話を聴く」(78.7%)、「専門機関に相談するようすすめたり、一緒に相談窓口に行く」(73.9%)が7割を超えて高くなっている。以下、「別れるようすすめる」(26.1%)、「警察に連絡する」(17.8%)などが続いている。

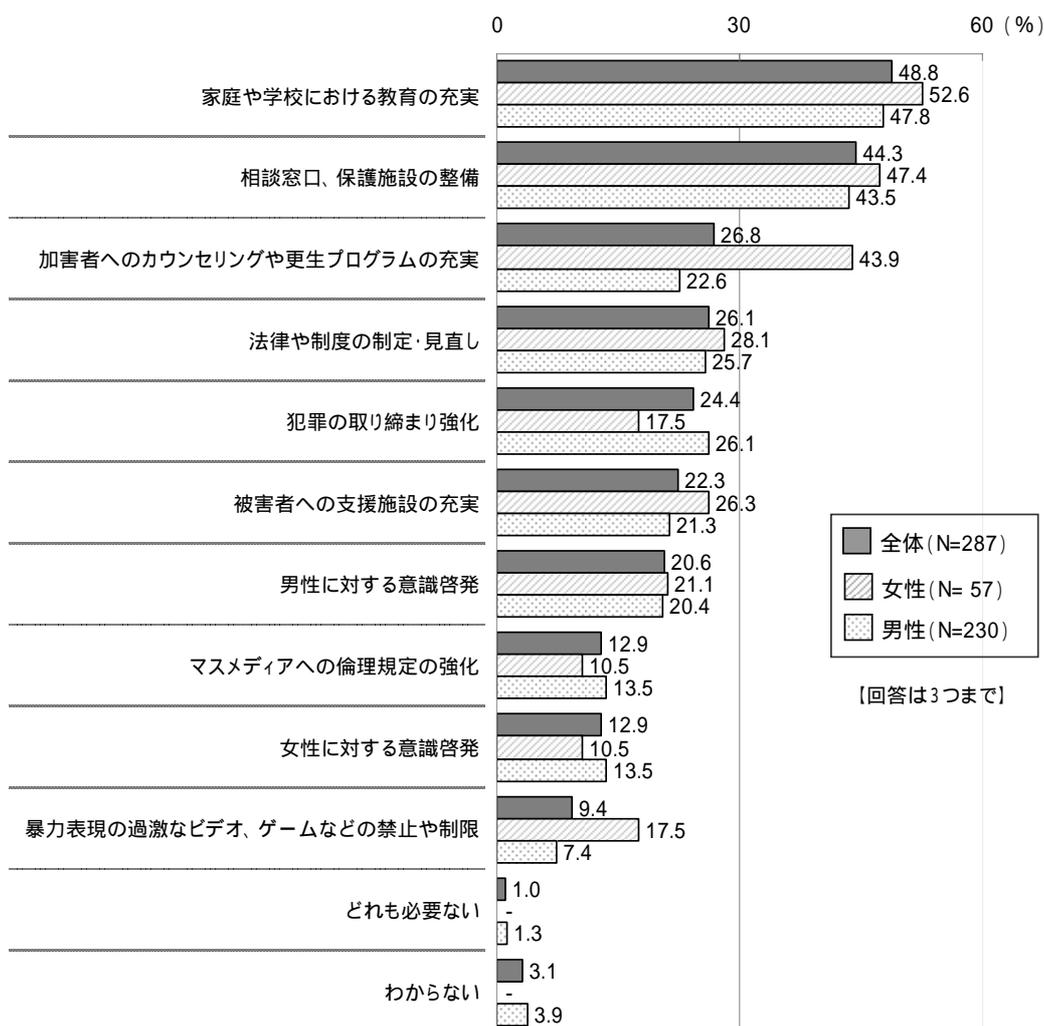
性別にみると、上位3位にあげられた対応は女性の割合の方が高く、「相手ばかりでなく、自分の悪いところも反省するように促す」や「暴力をふるっている人に注意する」などは男性にのみみられる対応となっている。

3. セクハラやDVをなくすために必要なこと

問14. あなたは、セクハラやDVをなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(印は3つまで)

セクハラやDVをなくすために必要なことは「家庭や学校における教育の充実」「相談窓口、保護施設の整備」が4割以上と高い。

図4-8 セクハラやDVをなくすために必要なこと [全体、性別]



セクハラやドメスティック・バイオレンスをなくすために必要なことをたずねたところ、「家庭や学校における教育の充実」(48.8%)と「相談窓口、保護施設の整備」(44.3%)が4割を超えて高くなっており、次いで「加害者へのカウンセリングや更生プログラムの充実」(26.8%)、「法律や制度の制定・見直し」(26.1%)、「犯罪の取り締まり強化」(24.4%)、「被害者への支援施設の充実」(22.3%)、「男性に対する意識啓発」(20.6%)などがあげられている。

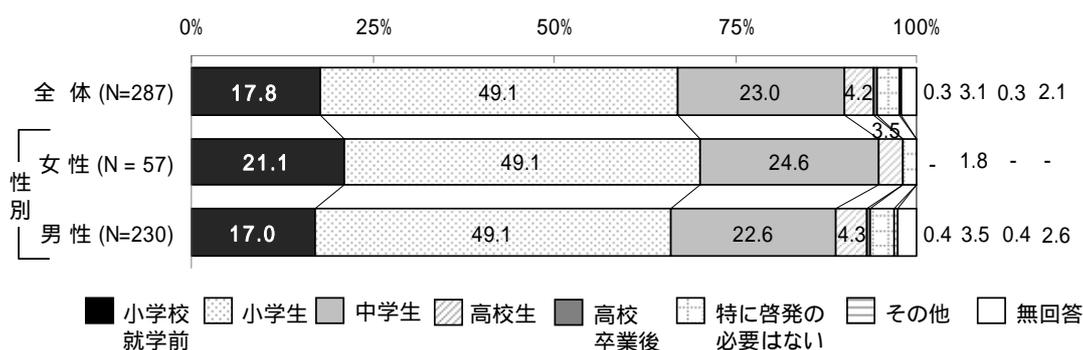
性別にみると、女性は「加害者へのカウンセリングや更生プログラムの充実」(女性 43.9%、22.6%)が21.3ポイント、「暴力表現の過激なビデオ、ゲームなどの禁止や制限」(同 17.5%、7.4%)が10.1ポイント男性よりも高いのが目立つ。

4. 暴力防止の啓発をはじめる時期

問 15 . セクハラやDVを防止するためには啓発が重要ですが、あなたは、いつごろから啓発することが大切だと思いますか。(印は1つ)

暴力防止の啓発をはじめる時期は「小学生」(49.1%)が最も多く、遅くとも中学生までの啓発が重要と考えている人が多い。

図 4 - 9 暴力防止の啓発をはじめる時期 [全体、性別]



暴力を防止するための啓発をはじめる時期について「小学生」が49.1%と最も高く、次いで「中学生」が23.0%、「小学校就学前」が17.8%となっており、早い時期からの啓発が重要と考えている人が多い。

性別にみると、女性は「中学生」までの啓発が重要と考えている人が94.8%であるが、男性は88.7%とやや少ない。

第5章 社会活動への参画について

1. 地域の役職に女性がつくことに対する考え方

問16. あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。
 (ア)～(キ)の各分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 (印は1つずつ)

地域の役職については「男性と同じくらいにする」が、特に女性に多い。

図5-1(1) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別]

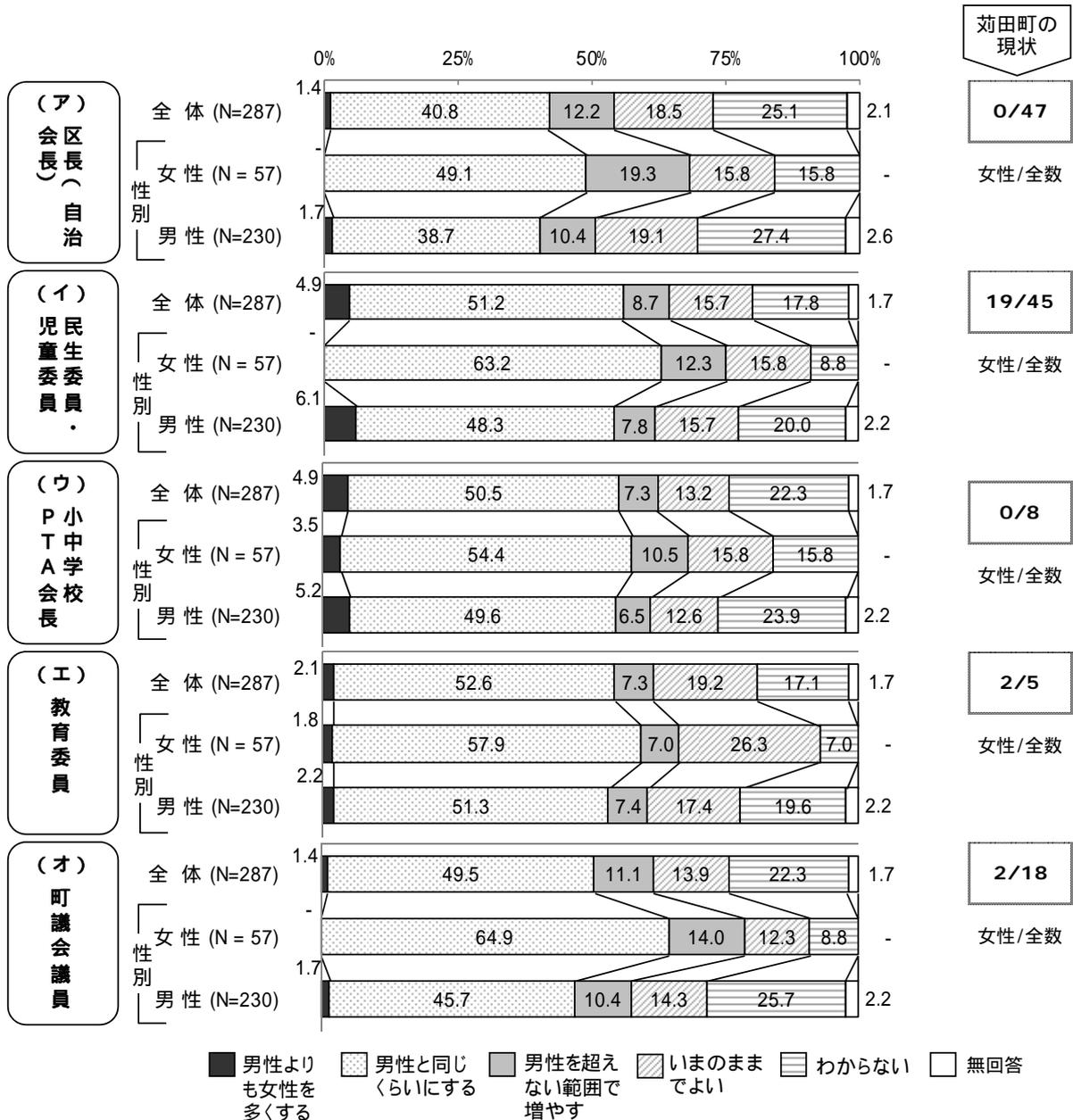
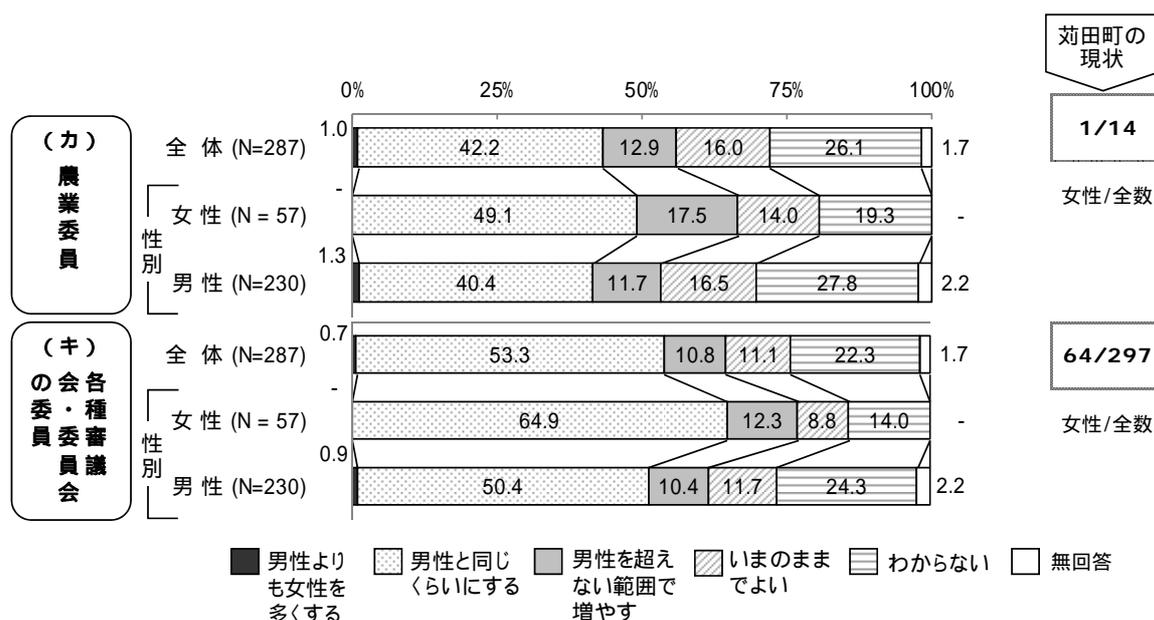


図5 - 1 (2) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別]



7つの役職について、現状の女性の人数を示し男女の割合をどの程度にするのがいいと思うかたずねた。役職ごとの現状の人数は「(ア) 区長(自治会長)」47人中0人(0%)、「(イ) 民生委員・児童委員」45人中19人(42.2%)、「(ウ) 小中学校PTA会長」8人中0人(0%)、「(エ) 教育委員」5人中2人(40.0%)、「(オ) 町議会議員」18人中2人(11.1%)、「(カ) 農業委員」14人中1人(7.1%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」297人中64人(21.5%)である。

いずれの役職も「男性と同じくらいにする」が4割台から5割台で最も多く、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」(53.3%)、「(エ) 教育委員」(52.6%)、「(イ) 民生委員・児童委員」(51.2%)、「(ウ) 小中学校PTA会長」(50.5%)、「(オ) 町議会議員」(49.5%)などは5割前後となっている。「男性よりも女性を多くする」は「(イ) 民生委員・児童委員」「(ウ) 小中学校PTA会長」が同率4.9%で最も高いが低率であった。

性別にみると、すべての役職において女性は「男性と同じくらいにする」の割合が男性よりも高く、「(オ) 町議会議員」(女性64.9%、男性45.7%)では19.2ポイントの差がある。その他「(イ) 民生委員・児童委員」(同63.2%、48.3%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」(同64.9%、50.4%)、「(ア) 区長(自治会長)」(同49.1%、38.7%)でも10ポイント以上の差がある。一方、男性はすべての役職で「わからない」の割合が女性を上回っている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の30歳代でほとんどの役職において「男性と同じくらいにする」の割合が女性の他の年代に比べて低くなっており、「男性を超えない範囲で増やす」や「いまのままでよい」や「わからない」が多くなっている。一方、男性の30歳代はほとんどの役職で「男性と同じくらいにする」の割合が他の年代に比べて高くなっており、同年代でも性別による差がみられる。

表5 - 1 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、年代別]

(%)

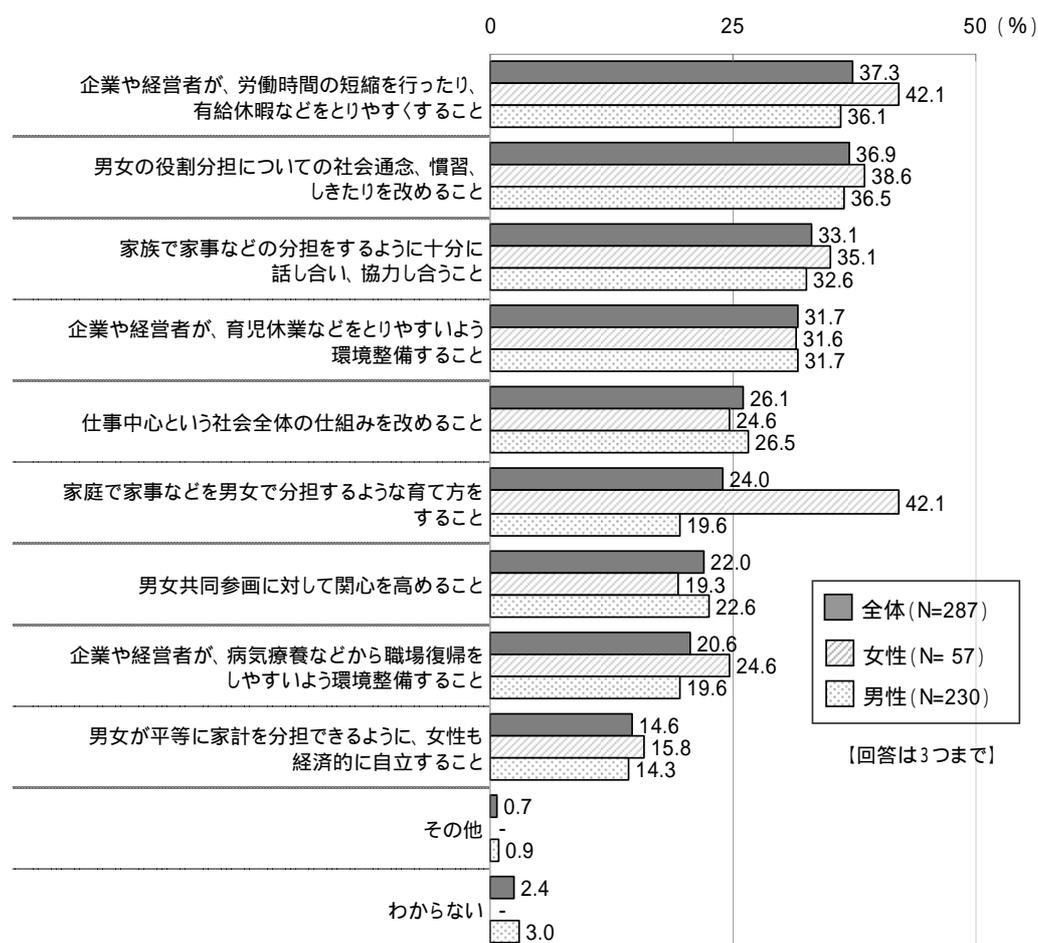
	標本数	(ア)区長(自治会長)						(イ)民生委員・児童委員						(ウ)小中学校PTA会長						
		を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	
全体	287 100.0	4 1.4	117 40.8	35 12.2	53 18.5	72 25.1	6 2.1	14 4.9	147 51.2	25 8.7	45 15.7	51 17.8	5 1.7	14 4.9	145 50.5	21 7.3	38 13.2	64 22.3	5 1.7	
年代別	女性:20歳代	19	-	57.9	10.5	15.8	-	-	68.4	5.3	15.8	10.5	-	-	68.4	5.3	15.8	10.5	-	
	女性:30歳代	18	-	33.3	33.3	5.6	27.8	-	50.0	16.7	22.2	11.1	-	-	38.9	22.2	11.1	27.8	-	
	女性:40歳代	14	-	50.0	14.3	28.6	7.1	-	64.3	21.4	7.1	7.1	-	7.1	50.0	7.1	21.4	14.3	-	
	女性:50歳以上	4	-	50.0	25.0	25.0	-	-	75.0	-	25.0	-	-	25.0	50.0	-	25.0	-	-	
	男性:20歳代	40	2.5	45.0	5.0	12.5	35.0	-	10.0	45.0	5.0	12.5	27.5	-	2.5	47.5	5.0	12.5	32.5	-
	男性:30歳代	65	1.5	49.2	6.2	16.9	24.6	1.5	6.2	55.4	3.1	13.8	20.0	1.5	3.1	60.0	1.5	10.8	23.1	1.5
	男性:40歳代	37	-	45.9	5.4	21.6	24.3	2.7	5.4	43.2	8.1	18.9	21.6	2.7	5.4	43.2	10.8	16.2	21.6	2.7
	男性:50歳以上	88	2.3	25.0	18.2	22.7	27.3	4.5	4.5	46.6	12.5	17.0	15.9	3.4	8.0	45.5	9.1	12.5	21.6	3.4
無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
	標本数	(エ)教育委員						(オ)町議会議員						(カ)農業委員						
		を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	
全体	287 100.0	6 2.1	151 52.6	21 7.3	55 19.2	49 17.1	5 1.7	4 1.4	142 49.5	32 11.1	40 13.9	64 22.3	5 1.7	3 1.0	121 42.2	37 12.9	46 16.0	75 26.1	5 1.7	
年代別	女性:20歳代	19	-	63.2	5.3	21.1	10.5	-	-	73.7	5.3	10.5	10.5	-	-	63.2	10.5	15.8	10.5	-
	女性:30歳代	18	-	44.4	5.6	44.4	5.6	-	55.6	22.2	11.1	11.1	-	-	33.3	27.8	16.7	22.2	-	
	女性:40歳代	14	-	64.3	14.3	14.3	7.1	-	57.1	21.4	14.3	7.1	-	-	42.9	14.3	14.3	28.6	-	
	女性:50歳以上	4	25.0	50.0	-	25.0	-	-	75.0	-	25.0	-	-	-	50.0	25.0	-	25.0	-	
	男性:20歳代	40	2.5	42.5	2.5	22.5	30.0	-	2.5	42.5	10.0	17.5	27.5	-	-	45.0	5.0	20.0	30.0	-
	男性:30歳代	65	1.5	64.6	1.5	13.8	16.9	1.5	1.5	60.0	3.1	9.2	24.6	1.5	3.1	56.9	1.5	10.8	26.2	1.5
	男性:40歳代	37	-	48.6	10.8	16.2	21.6	2.7	-	43.2	13.5	16.2	24.3	2.7	-	43.2	10.8	21.6	21.6	2.7
	男性:50歳以上	88	3.4	46.6	12.5	18.2	15.9	3.4	2.3	37.5	14.8	15.9	26.1	3.4	1.1	25.0	22.7	17.0	30.7	3.4
無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
	標本数	(キ)各種審議会・委員会の委員																		
		を男性より 多くする 女性	い男性と 同じくら い	範男性で 増えな い	いいま ままで よ	わから ない	無回 答	無回 答												
全体	287 100.0	2 0.7	153 53.3	31 10.8	32 11.1	64 22.3	5 1.7													
年代別	女性:20歳代	19	-	78.9	5.3	5.3	10.5	-												
	女性:30歳代	18	-	38.9	27.8	11.1	22.2	-												
	女性:40歳代	14	-	71.4	7.1	7.1	14.3	-												
	女性:50歳以上	4	-	75.0	-	25.0	-	-												
	男性:20歳代	40	-	47.5	2.5	17.5	32.5	-												
	男性:30歳代	65	1.5	63.1	1.5	7.7	24.6	1.5												
	男性:40歳代	37	-	51.4	13.5	13.5	18.9	2.7												
	男性:50歳以上	88	1.1	42.0	19.3	11.4	22.7	3.4												
無回答	2	-	100.0	-	-	-	-													

2. 男女がともに参画していくために必要なこと

問17. 男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。(印は3つまで)

仕事と家庭、社会活動へ積極的に参画していくためには「労働時間の短縮、有給休暇の取得」「役割分担についての社会通念、慣習を改める」などが上位。
女性は「家事などを男女で分担するような育て方」も上位にあがっている。

図5-2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、性別]



男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画するために必要なこととして「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」(37.3%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(36.9%)、「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」(33.1%)、「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」(31.7%)などが上位にあげられている。

性別にみると、女性は「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」と「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」が同率の42.1%で最も高く、特に後者の男性の割合は19.6%と男女差が大きくなっている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の40歳代で「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」が同率71.4%で高いが目立つ。女性の20歳代では「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」「企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること」「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」などの要望が高くなっている。

また、男性の20歳代でも「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」「企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること」など企業や経営者への要望が高く、また40歳代でも「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」が高く、その他「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」への要望が高い。50歳以上では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(45.5%)、「男女共同参画に対して関心を高めること」(30.7%)、「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」(37.5%)への要望が他の年代に比べて高い。

表5-2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、年代別]

		標本数	め通念、慣習、しきたりを改	組仕事を改めるとい社会全体の仕	短縮や行ったす、有給休暇の	企業や経営者が、労働時間な	企業や経営者が、育児休業整	うから職場復帰を、病気を	企業や経営者が、病気を	よ家族で家事などの分担、を	立するに、女性も計分的に	す家庭で家事などを男女で分	高男女共同参画に	その他	わからない	無回答
全体		287 100.0	106 36.9	75 26.1	107 37.3	91 31.7	59 20.6	95 33.1	42 14.6	69 24.0	63 22.0	2 0.7	7 2.4	8 2.8		
年代別	女性:20歳代	19	10.5	10.5	57.9	52.6	42.1	57.9	5.3	21.1	21.1	-	-	-	-	-
	女性:30歳代	18	38.9	38.9	50.0	33.3	16.7	22.2	16.7	38.9	5.6	-	-	-	-	-
	女性:40歳代	14	71.4	21.4	14.3	14.3	7.1	35.7	21.4	71.4	28.6	-	-	-	-	-
	女性:50歳以上	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	50.0	75.0	50.0	-	-	-	-	-
	男性:20歳代	40	35.0	20.0	47.5	50.0	30.0	25.0	7.5	15.0	17.5	-	2.5	-	-	-
	男性:30歳代	65	32.3	29.2	33.8	30.8	21.5	32.3	21.5	24.6	16.9	-	3.1	4.6	-	-
	男性:40歳代	37	24.3	40.5	48.6	27.0	16.2	29.7	18.9	24.3	18.9	-	2.7	5.4	-	-
男性:50歳以上	88	45.5	21.6	27.3	26.1	14.8	37.5	10.2	15.9	30.7	2.3	3.4	3.4	-	-	
無回答		2	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

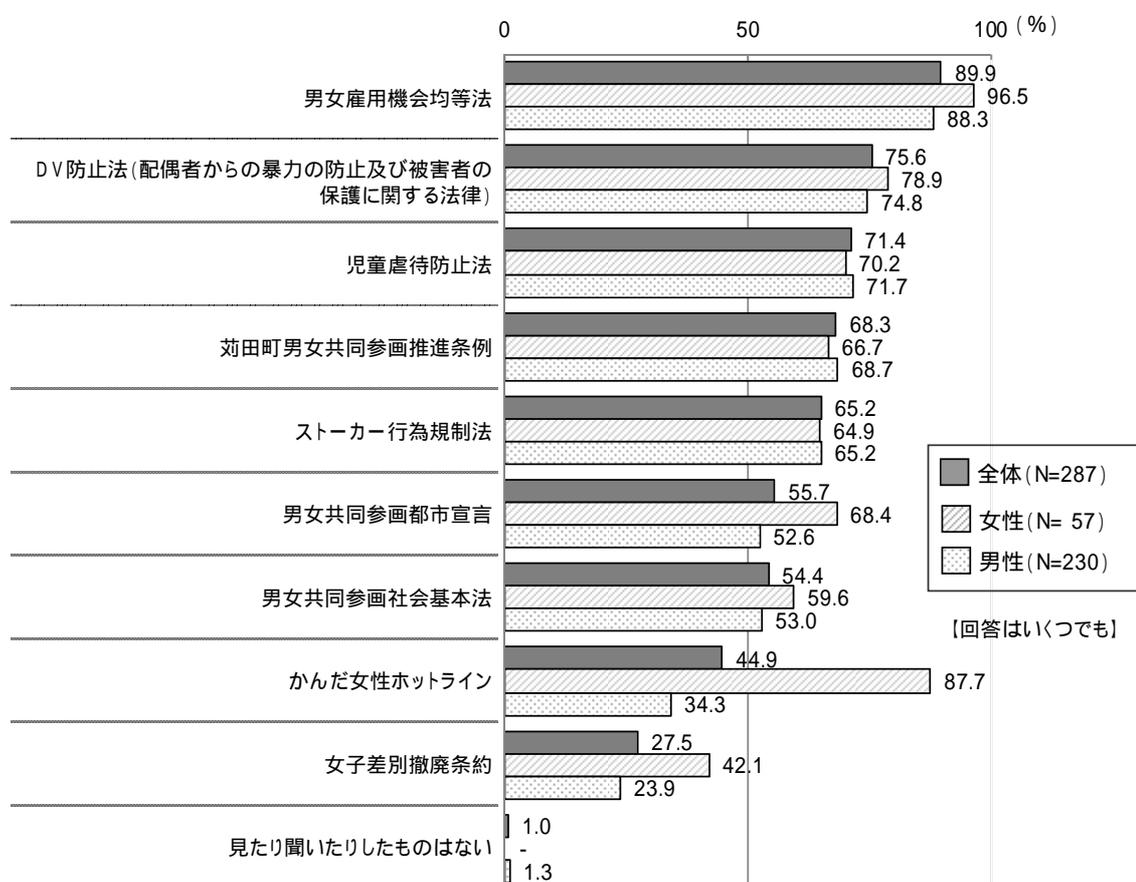
第6章 男女共同参画社会の実現に向けて

1. 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況

問18. 次の法律や制度などについて、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(印はいくつでも)

「男女雇用機会均等法」「DV防止法」「児童虐待防止法」の認知は7割以上である。

図6-1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況 [全体、性別]



男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知についてたずねたところ、「男女雇用機会均等法」(89.9%)、「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」(75.6%)、「児童虐待防止法」(71.4%)などは7割以上の認知となっている。また、「苅田町男女共同参画推進条例」(68.3%)、「ストーカー行為規制法」(65.2%)なども6割を超える認知である。

性別にみると、女性は「かんだ女性ホットライン」(女性87.7%、男性34.3%)、「女子差別撤廃条約」(同42.1%、23.9%)、「男女共同参画都市宣言」(同68.4%、52.6%)の認知が高く、男女差がみられる。

属性別特徴

年代別にみると、差はあまりみられないが、全体に男女とも 30 歳代で認知度がやや低い傾向にある。

表 6 - 1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況
[全体、年代別]

		(%)											
		標本数	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	男女共同参画社会基本法	ストーカー行為規制法	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者保護に関する法律)	児童虐待防止法	条例 荻田町男女共同参画推進	男女共同参画都市宣言	かんだ女性ホットライン	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全体		287 100.0	79 27.5	258 89.9	156 54.4	187 65.2	217 75.6	205 71.4	196 68.3	160 55.7	129 44.9	3 1.0	6 2.1
年代別	女性:20歳代	19	57.9	100.0	78.9	68.4	78.9	78.9	84.2	84.2	94.7	-	-
	女性:30歳代	18	33.3	88.9	44.4	61.1	61.1	55.6	44.4	44.4	72.2	-	5.6
	女性:40歳代	14	28.6	100.0	50.0	50.0	92.9	78.6	71.4	71.4	92.9	-	-
	女性:50歳以上	4	75.0	100.0	75.0	100.0	100.0	75.0	75.0	75.0	100.0	-	-
	男性:20歳代	40	45.0	92.5	47.5	65.0	72.5	70.0	75.0	62.5	30.0	-	-
	男性:30歳代	65	18.5	86.2	43.1	70.8	73.8	69.2	56.9	40.0	29.2	3.1	1.5
	男性:40歳代	37	8.1	86.5	59.5	70.3	78.4	70.3	75.7	43.2	32.4	2.7	2.7
	男性:50歳以上	88	25.0	88.6	60.2	59.1	75.0	75.0	71.6	61.4	40.9	-	3.4
無回答		2	-	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	-	-

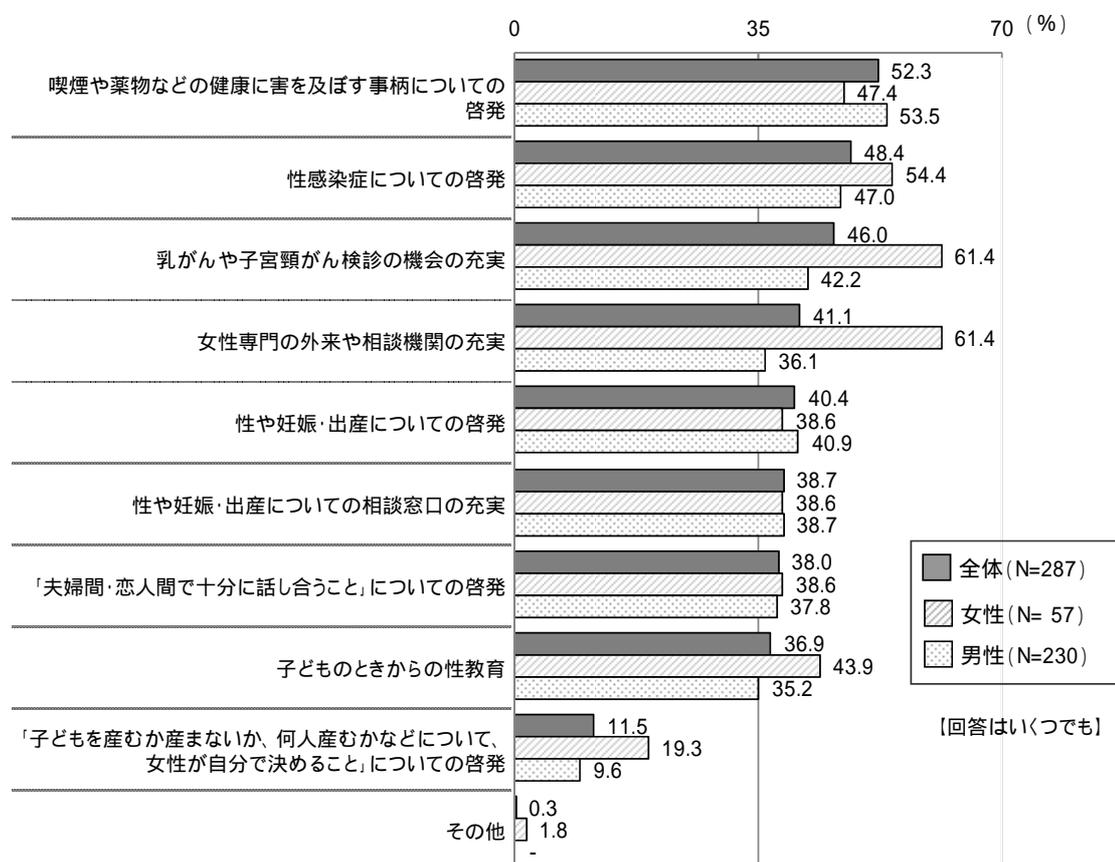
2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ のために必要なこと

問19.「生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)」についておたずねします。【男女ともお答えください】

女性の健康を守るために、性や妊娠・出産について、どのようなことが必要だと思いますか。(印はいくつでも)

女性の健康を守るために必要なこととして、男性は「健康に害を及ぼす事柄についての啓発」、
女性は「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」「女性専門の外来や相談機関の充実」。

図6-2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと [全体、性別]



女性の健康を守るために必要なことは「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」(52.3%)、「性感染症についての啓発」(48.4%)、「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」(46.0%)、「女性専門の外来や相談機関の充実」(41.1%)、「性や妊娠・出産についての啓発」(40.4%)など多岐にわたってあげられている。

性別にみると、女性は「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」と「女性専門の外来や相談機関の充実」が同率61.4%で最も高く、その他「子どものときからの性教育」(43.9%)も上位にあげられている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の20歳代で「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」、30歳代で「性感染症についての啓発」「性や妊娠・出産についての啓発」が高く、「喫煙や薬物などの健康に被害を及ぼす事柄についての啓発」「子どものときからの性教育」などは男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向にある。

表6 - 2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと [全体、年代別]

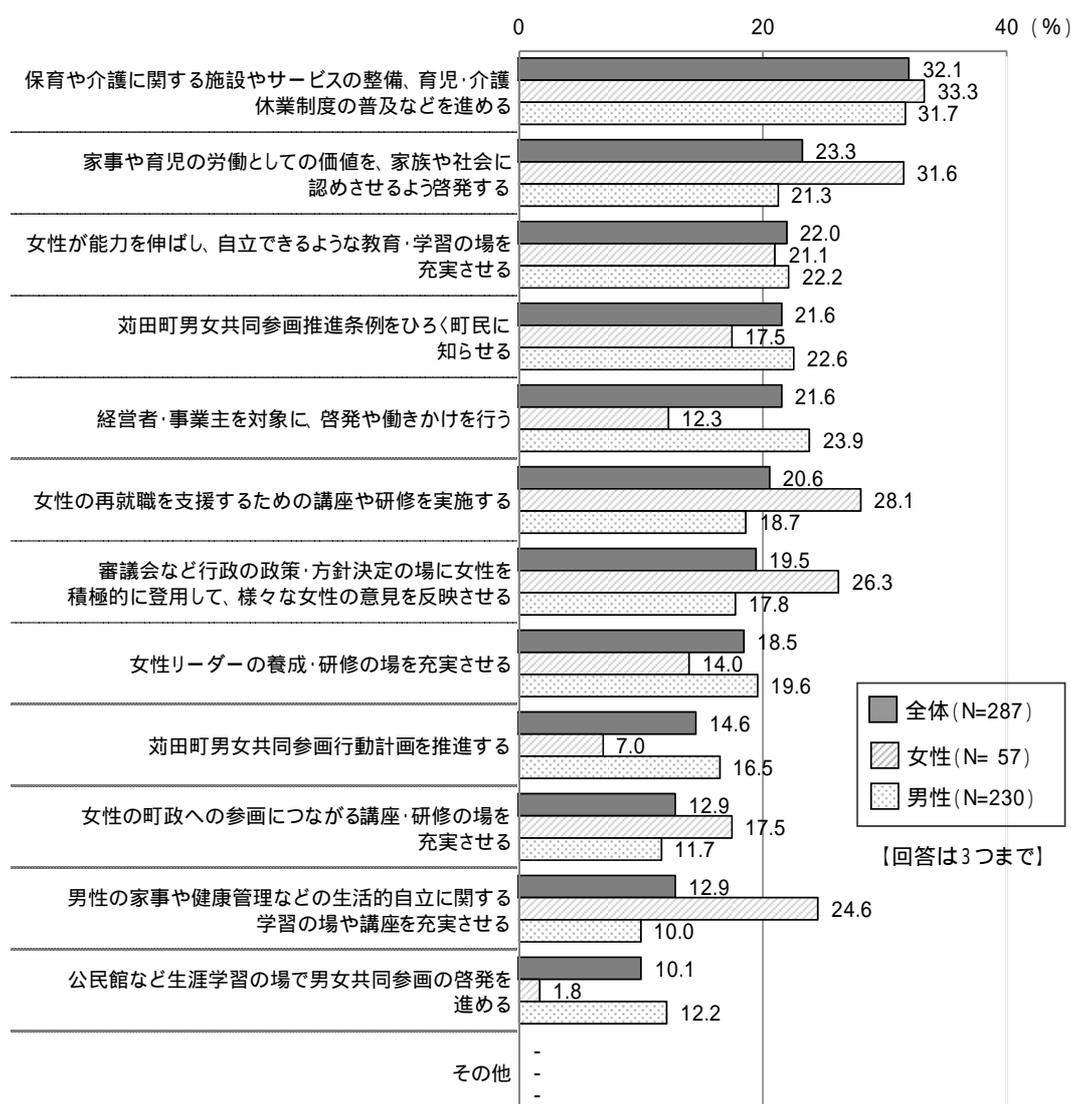
		標本数	性や妊娠・出産についての啓発	口性や妊娠・出産についての相談窓	分人産「子どもを産むか産まないか、何	うこと「夫婦間・恋人間で十分に話し合	子どものときからの性教育	性感染症についての啓発	す喫煙や薬物などの健康に害を及ぼ	充乳がんや子宮頸がん検診の機会の	女性専門の外来や相談機会の充実	その他	無回答
全体		287 100.0	116 40.4	111 38.7	33 11.5	109 38.0	106 36.9	139 48.4	150 52.3	132 46.0	118 41.1	1 0.3	9 3.1
年代別	女性:20歳代	19	31.6	42.1	5.3	36.8	26.3	47.4	52.6	89.5	63.2	-	-
	女性:30歳代	18	50.0	27.8	22.2	22.2	55.6	66.7	38.9	33.3	44.4	5.6	5.6
	女性:40歳代	14	35.7	50.0	28.6	57.1	50.0	50.0	57.1	57.1	71.4	-	-
	女性:50歳以上	4	25.0	50.0	50.0	50.0	75.0	50.0	50.0	50.0	100.0	-	-
	男性:20歳代	40	47.5	47.5	20.0	45.0	25.0	50.0	50.0	50.0	42.5	-	-
	男性:30歳代	65	46.2	36.9	12.3	44.6	24.6	43.1	52.3	44.6	30.8	-	3.1
	男性:40歳代	37	35.1	32.4	10.8	29.7	45.9	64.9	59.5	48.6	45.9	-	5.4
	男性:50歳以上	88	36.4	38.6	2.3	33.0	43.2	40.9	53.4	34.1	33.0	-	4.5
無回答		2	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	100.0	50.0	-	-

3. 男女共同参画社会の実現のための行政施策

問20. 苅田町が「男女共同参画社会」づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。(印は3つまで)

男女共同参画社会実現のために「保育や介護の施設やサービスの整備、制度の普及を進める」「家事や育児の労働としての価値を認めさせる」が上位。

図6-3 男女共同参画社会の実現のための行政施策 [全体、性別]



男女共同参画社会づくりを進めるために町が取り組む施策についてたずねたところ、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」が32.1%で最も高く、次いで「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」23.3%、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」22.0%、「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」「経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う」同率21.6%、「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」20.6%など多岐にわたってあげられている。

